

京隈侍屋敷遺跡

－第20・22次調査－

平成25（2013）年1月

久留米市教育委員会

京隈侍屋敷遺跡

－第20・22次調査－

平成25（2013）年1月

久留米市教育委員会

序

平成17年2月5日、1市4町の広域合併によって人口30万人を超える新「久留米市」が誕生いたしました。九州最大の河川である筑後川と、耳納連山の山並みに代表されるように、豊かな水と緑に囲まれた文化都市として発展を続けています。このような環境の下、久留米市内には先人たちの残した足跡である貴重な文化財が数多く存在しており、古来からの歴史が大地に刻まれています。

ここに報告する京隈侍屋敷遺跡は、平成22年度に全線開通した九州新幹線鹿児島ルートJR久留米駅周辺開発工事に伴って、平成21年度から22年度にかけて発掘調査を実施いたしました。その結果、近世武家屋敷の遺構が姿を現し、久留米城を中心とする近世城下町遺跡の一端を認識することができました。

本書の刊行によって近世久留米城下町の構造解明、更には文化財保護思想の理解と普及に貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に際してご協力いただきました、九州旅客鉄道株式会社の方々、地元の方々、多くのご指導をいただいた先生方をはじめ、関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成25年1月31日

久留米市教育委員会
教育長 堤 正則

例 言

1. 本書は、久留米市城南町に所在する京限侍屋敷遺跡第20・22次調査の発掘調査報告書である。
2. 平成21・22年度に実施した第20次調査、及び平成22年度に実施した第22次調査は、九州旅客鉄道株式会社からの委託事業として実施したもので、調査費用は九州旅客鉄道株式会社が負担した。
3. 調査に係る事務は、久留米市教育委員会が調査主体となり、久留米市文化観光部（現市民文化部）文化財保護課の水原道範・熊代昌之が担当した。
4. 本書に掲載した遺構実測図は、緒方智恵子・御手洗久直・小屋敷理恵・大淵文子の補助を受けて水原・熊代・廣木誠が原図を作成し、古賀和子・豊田章子が浄書した。
5. 本書に掲載した遺構写真は水原と江頭俊介・熊代が撮影し、遺物写真は塚本映子と熊代が撮影した。使用機材は、カメラがマミヤR B67、フィルムはモノクロ写真をコダック社T-MAX100、カラー写真にはコダック社エクタクロームE P Pカラーリバーサルフィルムを使用し、共に6×7版で撮影している。
6. 遺構実測図は国土調査法第II座標系（世界測地系）を基に作成し、図面の方位は座標北を示す。
7. 本書中の遺構略記号は、S D・・・溝、S E・・・井戸、S K・・・土坑、S P・・・柱穴・ピット、S X・・・その他の遺構を示す。
8. 遺物観察表の凡例は次のとおりである。

法量の単位はcmである。（ ）の数値は現存値、[]の数値は復元値を示す。

色調は『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社 1997年度版）による。
9. 調査に関わる遺物及び図面などの記録類は、全て久留米市埋蔵文化財センターに収蔵・保管している。今後は展示などに活用される予定である。
10. 本書の執筆・編集は廣木の補助を受けて水原・熊代が担当し、遺物観察表は豊田章子が作成した。

本 文 目 次

第1章 はじめに	（水原・熊代） 1
第2章 位置と環境	（水原） 2
第3章 第20次調査	（水原） 6
第4章 第22次調査	（熊代） 26

挿 図 目 次

第1図	調査地周辺の遺跡分布図 (1/25,000)	4
第2図	調査地の位置と周辺地形図 (1/2,500)	4
第3図	第20次調査遺構配置図 (1/300)	5
第4図	SD6・13・16・35・37実測図 (1/40)	7
第5図	SK1・4・5実測図 (1/40・1/60)	8
第6図	SK10・17・22・23実測図 (1/40)	10
第7図	SK24・26・27実測図 (1/40・1/60)	12
第8図	SK28・30・42・43実測図 (1/40)	13
第9図	SK50・51・55実測図 (1/40)	15
第10図	SE7・8・11・25・31実測図 (1/40)	18
第11図	SE32・34・40・44・45実測図 (1/40)	19
第12図	第22次調査遺構配置図 (1/200)	27
第13図	SK1・7・8・10実測図 (1/60)	28
第14図	SK3・6・13・20・21・24実測図 (1/60)	30
第15図	SK25・26・27・32実測図 (1/60)	31

表 目 次

第1表	京限侍屋敷遺跡第20次調査出土遺物観察表①	20
第2表	京限侍屋敷遺跡第20次調査出土遺物観察表②	21
第3表	京限侍屋敷遺跡第20次調査出土遺物観察表③	22
第4表	京限侍屋敷遺跡第20次調査出土遺物観察表④	23
第5表	京限侍屋敷遺跡第20次調査出土遺物観察表⑤	24
第6表	京限侍屋敷遺跡第20次調査出土遺物観察表⑥	25
第7表	京限侍屋敷遺跡第22次調査出土遺物観察表①	33
第8表	京限侍屋敷遺跡第22次調査出土遺物観察表②	34
第9表	京限侍屋敷遺跡第22次調査出土遺物観察表③	35
第10表	京限侍屋敷遺跡第22次調査出土遺物観察表④	36

図 版 目 次

図版 1 (1) 第20次調査南調査区全景 (北から)	図版13 第20次調査出土遺物写真⑧
(2) 第20次調査中央調査区全景 (南から)	図版14 第20次調査出土遺物写真⑨
図版 2 (1) 第20次調査北調査区全景① (南から)	図版15 (1) 第22次調査北区完掘状況 (南から)
(2) 第20次調査北調査区全景② (南から)	(2) 第22次調査南区完掘状況 (北から)
図版 3 (1) S D13完掘状況 (北東から)	図版16 (1) 調査区北半部完掘状況 (南から)
(2) S D14~16完掘状況 (北東から)	(2) 調査区南半部完掘状況 (南から)
(3) S D37、S K26完掘状況 (北西から)	(3) S K 1完掘状況 (東から)
(4) S D37完掘状況 (北西から)	(4) S K 1階段検出状況 (西から)
(5) S D37石列検出状況 (北西から)	(5) S K6・7完掘状況 (南から)
(6) S D49完掘状況 (南西から)	(6) S K 8完掘状況 (西から)
(7) S K 1完掘状況 (北西から)	(7) S K10完掘状況 (西から)
(8) S K 4・5完掘状況 (東から)	(8) S K10完掘状況 (北から)
図版 4 (1) S K 9遺物出土状況 (南から)	図版17 (1) S K 3完掘状況 (西から)
(2) S K 9完掘状況 (南西から)	(2) S K13完掘状況 (南から)
(3) S K10・22完掘状況 (南西から)	(3) S K14完掘状況 (北西から)
(4) S K17完掘状況 (南西から)	(4) S K20完掘状況 (南から)
(5) S K23完掘状況 (南から)	(5) S K21完掘状況 (南から)
(6) S K24完掘状況 (南から)	(6) S K24完掘状況 (東から)
(7) S K28完掘状況 (西から)	(7) S K26完掘状況 (南から)
(8) S K36掘り下げ状況 (北東から)	(8) S K32完掘状況 (南から)
図版 5 (1) S K43完掘状況 (西から)	図版18 第22次調査出土遺物写真①
(2) S K50掘り下げ状況 (南西から)	図版19 第22次調査出土遺物写真②
(3) S K51完掘状況 (南西から)	図版20 第22次調査出土遺物写真③
(4) S K55完掘状況 (西から)	図版21 第22次調査出土遺物写真④
(5) S E 8掘り下げ状況 (南から)	図版22 第22次調査出土遺物写真⑤
(6) S E11掘り下げ状況 (南から)	図版23 第22次調査出土遺物写真⑥
(7) S E31完掘状況 (北から)	
(8) S E34掘り下げ状況 (東から)	
図版 6 第20次調査出土遺物写真①	
図版 7 第20次調査出土遺物写真②	
図版 8 第20次調査出土遺物写真③	
図版 9 第20次調査出土遺物写真④	
図版10 第20次調査出土遺物写真⑤	
図版11 第20次調査出土遺物写真⑥	
図版12 第20次調査出土遺物写真⑦	

第1章 はじめに

1. 調査に至る経過

京限侍屋敷遺跡第20次調査は、J R久留米駅東口の立体駐車場建設に伴う事前の発掘調査である。平成21年10月14日、九州旅客鉄道株式会社より対象地の埋蔵文化財包蔵の有無について照会がなされた。これを受けて文化財保護課は、対象地が京限侍屋敷遺跡の範囲内に含まれ、隣接地で実施した第9・14・16次調査ではそれぞれ対象地へ向かって延びる遺構が検出されていることから遺構の存在が予想される場所であり、発掘調査が必要な場所であることを回答。以後は協議を進め、平成21年12月22日に京限侍屋敷遺跡第20次調査に係る協定書と平成21年度委託契約書を取り交わした。

京限侍屋敷遺跡第22次調査は、J R久留米駅の東口側駅ビル建設に伴う事前の発掘調査である。平成22年5月7日、九州旅客鉄道株式会社より対象地の埋蔵文化財包蔵の有無について照会がなされた。これを受けて文化財保護課は、対象地が京限侍屋敷遺跡の範囲内に含まれていることから遺構の存在が予想される場所であり、発掘調査が必要であることを回答。以後、協議を進め、平成22年7月1日に京限侍屋敷遺跡第22次調査に係る委託契約書を取り交わした。

2. 調査の体制

京限侍屋敷遺跡第20・22次調査に係る組織体制は以下のとおりである。

【平成21年度】

委託者	九州旅客鉄道株式会社	代表取締役社長	唐池 恒二
調査主体	久留米市教育委員会	教育長	堤 正則
調査総括	久留米市文化観光部	部 長	中國 雄介
		次 長	辻 文孝
文化財保護課		課 長	水落 哲也
		学芸主幹	山口 淳
		課長補佐兼主査	立石 雅文
		課長補佐兼主査	古賀 正美
		事務主査	近澤 康治・白木 守
		庶務担当	木庄 ともえ
		調査担当	水原 道範
		整理担当	古賀 和子・豊田 章子

【平成22年度】

委託者	九州旅客鉄道株式会社	代表取締役社長	唐池 恒二
調査主体	久留米市教育委員会	教育長	堤 正則

調査総括：久留米市文化観光部	部 長	辻 文孝
	次 長	佐藤 光義
文化財保護課	課 長	立石 雅文
	学芸主幹	山口 淳
課長補佐兼主査		古賀 正美・宮崎 俊一
課主査		白木 守
事務主査		近澤 康治
庶務担当		本庄 ともえ
調査担当		水原 道範・熊代 昌之
整理担当		古賀 和子・豊田 章子

【平成24年度】

調査主体：久留米市教育委員会	教育長	堤 正則
調査総括：久留米市市民文化部	部 長	辻 文孝
	次 長	佐藤 光義
文化財保護課	課 長	古賀 正美
課長補佐兼主査		宮崎 俊一
課長補佐		園井 正隆
課主査		白木 守・辻 義則
庶務担当		豊福 早苗
整理担当		水原 道範・熊代 昌之
整理担当		古賀 和子・中里 由佳絵

発掘調査臨時職員

井上登志男・杉山光恵・光安清幸・堀田秀実・溝上国男・芳野ヒサ子・緒方智恵子
 御手洗久直・末安茂喜・小屋敷理恵・廣木誠・岡重徳・秋永絹子・大淵文子・緒方静香
 川原初美・佐藤朱美・田中とし子・中野ゆみ・西ヶ迫久美子・藤井佳都子・溝口輝男
 古賀勝治・畠中一平・西江悠貴

発掘調査整理臨時職員

長岡由香利・阿多祐子

第2章 位置と環境

1. 地理的環境

調査地は久留米市北西部の京町に所在する。この地は筑後川左岸に面した久留米段丘の北西端部に位置し、標高は6 mを測る。ここでは江戸時代以前の概略を述べたい。

2. 江戸時代以前の歴史的環境

京限侍屋敷地区は寛永9年(1632)にその基本形が形成されたと伝わる武家屋敷地である。この造成時に大規模な地形の改変が行われ、それ以前の状況は詳細が不明な点が多い。

この地区における人々の生活の営みは弥生時代に始まる。集落などの実態はいまだ不明であるが、第6次調査において7基の甕棺墓が調査され、墓域の一部が明らかとなっている。古墳時代には調査地の西約300m地点に日輪寺古墳が造られている。築造時期は5世紀末～6世紀初頭と推定され、石室内には線刻装飾された石障を持つ。続く律令期は『和名抄』にみえる三瀧郡烏養郷の一部と考えられているが、実態は不明である。中世の発掘調査による検出遺構としては、第12次調査において、屋敷地等の区画溝と想定される16世紀代の溝が検出されている程度である。

奈良時代・平安時代のこの地についての資料はみられない。この地は国郡制では筑後国三瀧郡に含まれ、同郡には八郷あるがこの地がどの郷に入るのか不明。平安末である平治元年(1159)年以前に三瀧郡全域を対象に三瀧荘が立荘されているが、この時期に当地は三瀧荘に含まれていた。三瀧荘関係資料には経限(きょうのくま)の名称はみられず、中世に成立した村落であろう。

中世の京限については不明な点が多い。日輪寺古墳の墳丘上に応永22年(1415)銘をもつ地藏菩薩彫像板碑が造立されている。この地藏板碑は応永年間に高良山、大善寺玉垂宮、長門石・経限地区の三地区を中心に地藏信仰の隆盛に伴い作られたものである。現在10基の地藏板碑が確認されており、いずれも久留米市の指定文化財となっている。

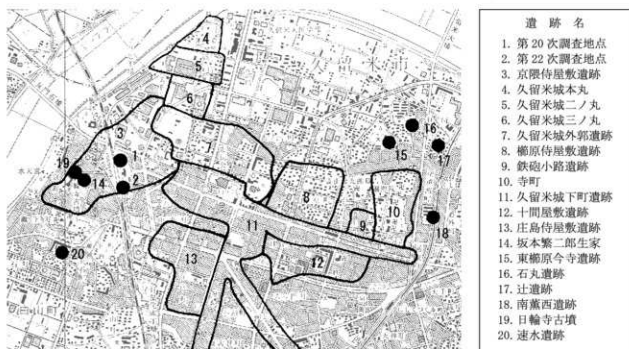
経限の地名伝説として代表的なものとして以下のものがある。(「久留米市史」5巻)

- ① 巨勢入道の室が法華經九万部を供養し、塔一基を日輪寺山内に建立し、經九万⇒経限
⇒京限⇒京町 (北筑雑叢)
- ② 按察使局が筑後川対岸の鷺野原に社を建て、安徳天皇の菩提を祈念したが、旅僧が
これをみて法華經九万部を納めたことによる。 (郷土研究筑後)

①は延宝2年(1674)の記録であり、中世まで遡るものであろう。巨勢入道は筑後川の支流巨勢川の水神、室は筑後川の水神、また、安徳天皇も水天宮の祭神であり、この伝承の成立に尼御前社(のちの水天宮)が深く関わっていることがわかる。それに法華經を供養するという伝承から、この地に宗教者の積極的な活動が窺える。地藏板碑造立の中心のひとつという事実もこの宗教的環境の中で理解できよう。

戦国末になるとこの地域も争乱のなかに巻き込まれている。北方に約1.3kmにある久留米城に高良山座主の弟麟主が籠城し、天正11年から3年ほど龍造寺側として大友方と戦っており、この地もその争乱と無関係ではなかったと思われるが、それを示す資料は発見されていない。天正15年、豊臣秀吉による「九州国分け」によって久留米城に毛利秀包が入城している。この時期の地域のあり方は不明である。慶長6年(1601)には筑後一国の領主として田中吉政が筑後に入り、柳川城を本城とし、久留米城は北筑後を押さえる支城となる。この時期に城下町の建設が行われているが、京限地区の動向については分らない。

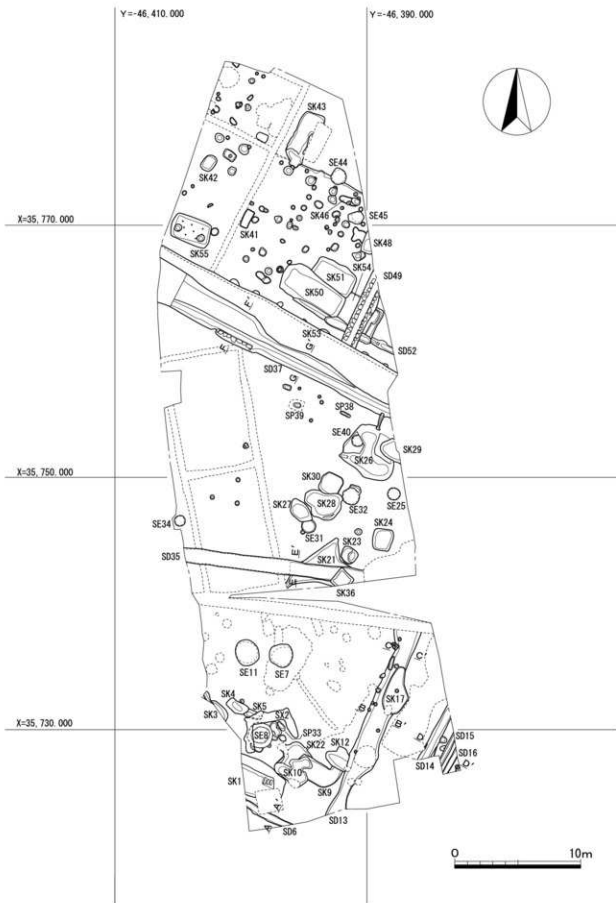
元和7年(1621)に筑後北半の21万石の大名として有馬豊氏が久留米に入ると、早速大規模な城郭の建設を始めている。元和7年には京隈村に武家屋敷が建設されることになり、住民は移動を命じられ、同9年には京隈小路が成立している。また、延宝4年(1676)には京隈小路の南に小松原小路が建設されている。この小路は久留米藩の中級武士の屋敷地となっている。



第1図 調査地周辺の遺跡分布図(1/25,000)



第2図 調査地の位置と周辺地形図(1/2,500)



第3図 第20次調査遺構配置図(1/300)

第3章 第20次調査

1. 調査の経過

現地における調査は、対象地のうち営業線路に近接する部分、および保安施設への通路などを除外した東側を対象として、平成22年1月より調査を開始する運びとなった。以下、調査日誌から抜粋する。

排土置き場を確保する必要があるため、まず南半部を調査し、反転して残る北半部を調査する作業計画に即し、平成22年1月6日まず対象地の南側より重機による表土剥ぎを開始した。隣接地を調査した第14・16次調査の成果から、表土から約1.0mの深さで遺構検出面に達するものと予想していたが、調査地南部は大規模な削平を受けており、検出面までの深さは1.4～1.7mに達した。そのため増加した土量に対応するため排土置き場に相当な面積を確保する必要が生じ、また、対象地上を通過する電線への重機の接触を防止するため排土を積む高さに制限があることから、当初の予定を変更し対象地を3分割して調査を行うこととした。

南調査区は、江戸時代初期と幕末頃の穴蔵、武家屋敷の区画溝と推定される溝などを検出し、2月10日に気球による全景写真撮影を行い終了。同月12日～17日の期間に南区の埋め戻しと中央区の表土剥ぎを行う。

中央区の調査は2月18日より作業を開始し、江戸時代の土坑や溝・井戸、近代の池状遺構を検出。25日に気球写真を撮影して中央区の調査を終了。3月2日～3日に中央区の埋め戻しと北区の表土剥ぎを開始する。

北区は南側が著しく攪乱されていたが、武家屋敷地の北側区画溝と考えられる東西溝の北側は中央区よりも約1.0m高くなっているため、現表土から10～30cmで遺構面に達する。北区では江戸時代後期～昭和初期に及ぶ穴蔵や溝、井戸などの遺構群が検出された。穴蔵などの遺構を一部掘り下げたが3月19日に現場作業を休止。平成21年度委託契約の精算を行なう。4月8日に平成22年度委託契約を締結し、同月16日より調査を再開した。再開後は雨天の日が多く、著しい湧水にも悩まされながら掘り下げを進め、28日に掘り下げと実測作業を終了。同時に重機による埋め戻し作業を開始し、30日に埋め戻し作業を完了し、現地における作業を終了した。

調査面積は1,018㎡（対象面積2,985㎡）。

出土品の整理作業は、平成22年7月1日～同年9月30日の期間に実施している。

遺構実測は、主にトータルステーションを用いて行い、そのデータは株式会社CUBIC製ソフト「遺構くんCubic」を用いて編集・保管している。その他に適宜1/20の図面を作成した。遺構の記録写真は、カラーリバーサル・モノクローム写真を6×7判で撮影した。

2. 検出遺構

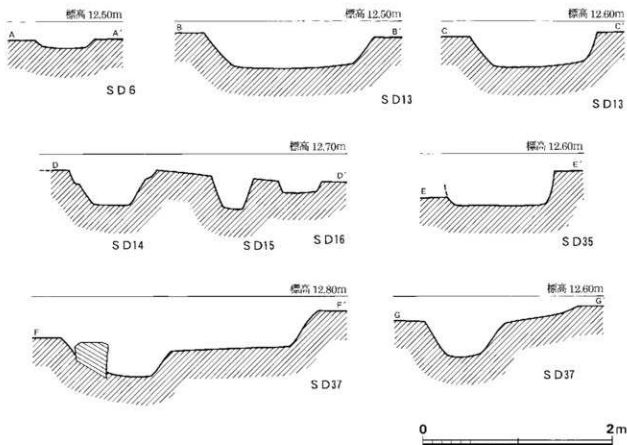
調査区中央部においては、表土下150 cmで遺構検出面に至る。その土層状況は、①表土から20 cmの厚さを持つ暗褐色土、②厚さ10 cmの焼土・炭化物質、③厚さ20 cmの真砂土層、④厚さ40 cmの褐色土を含むコークス灰層、⑤厚さ60 cmの明褐色土が多量混入した褐色土層を除去した後、遺構検出面となる明褐色土の上面に至るもので、①層は第2次大戦後の盛土。②層は昭和20年8月11日・13日の空襲による火災層である可能性がある。③～⑤層は明治以降から昭和初期に嵩上げされた盛土層と推定されるものである。SD37以北の上段部は約10～30 cmの盛土を除去すると遺構検出面となり、最北端部ではアスファルトを除去すると検出面であった。

第20次調査においては、溝9条、土坑25基、井戸10基などが検出された。

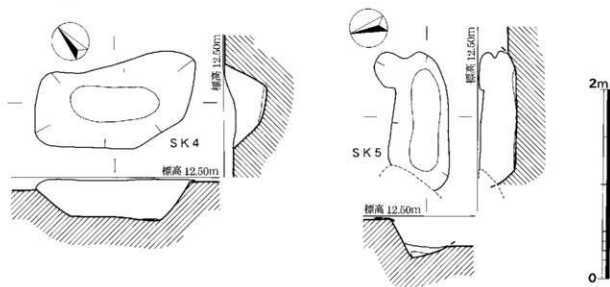
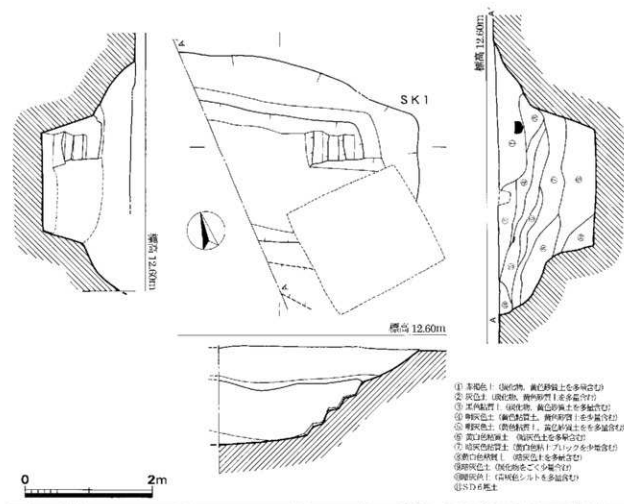
溝

SD6 (第4図) 調査区南西隅部で検出した南東～北西走行する溝。遺構の両端部は調査区外へ延びているが、3.5 m分を検出。幅60 cm前後、深さ10 cm前後を測り、断面はU字状を呈する。SK1よりも後出する。

SD13 (第4図、図版3) 調査区南東部を南西～北東方向へ走行する溝。この溝の北側は攪乱によって失われ、南側は調査区外へ延びているが、15.5 m分を検出。上端幅70～180 cm、下端幅60～130 cmを測り、底面は平坦である。埋土は褐色土を多量含む灰色土による一括埋土で、深さは



第4図 SD6・13～16・35・37実測図 (1/40)



第5図 SK1・4・5実測図 (1/40, 1/60)

40 cm前後。溝底のレベルは北側から南側へ向かって深くなっている。SK12 よりも後出し、SK17 に先行する溝である。

SD14 (第4図、図版3) SD13の約3.5m東側で検出された溝。SD13とほぼ平行して走行する。今回の調査では約4.3m分を検出したが、その位置関係から第16次調査SD2の南側延長部と見られる溝であり、合わせて15.7m分が検出されたこととなる。南側は攪乱によって失われている。上端部幅80～90 cm前後、下端部幅は50 cm前後を測り、断面はU字状を呈する。埋土は暗灰色粘質土。

SD15 (第4図、図版3) SD14の約70 cm東側をほぼ平行して走行する溝。今回は2.3m分を検出したが、この溝も第16次調査SD1の南側延長部と見られ、合わせて12.9m分を検出したこととなる。上端部幅約45 cm、下端部幅約25 cmを測り、断面は逆台形状を呈する。每土は少量の黄色土を含む褐色土。

SD16 (第4図、図版3) SD15のすぐ東側を平行して走行する溝。今回2.0m分を検出したこの溝は第16次調査SD4の南側延長部と見られ、合わせて13.0m分が検出された。上端部幅約50 cm、下端部幅40 cm、断面は逆台形状を呈する。埋土は暗褐色土であるが、埋土中には焼土や炭化物が多量含まれていた。

SD35 (第4図) 調査区中央部を東西走行する溝。東側は攪乱によって失われ、西側は調査区外へ延びているが、14.4m分を検出。上端部幅1.2m前後、下端部幅1.1m前後。断面は逆台形状を呈し、深さは30～40 cmを測る。SK21・36 よりも後出する。

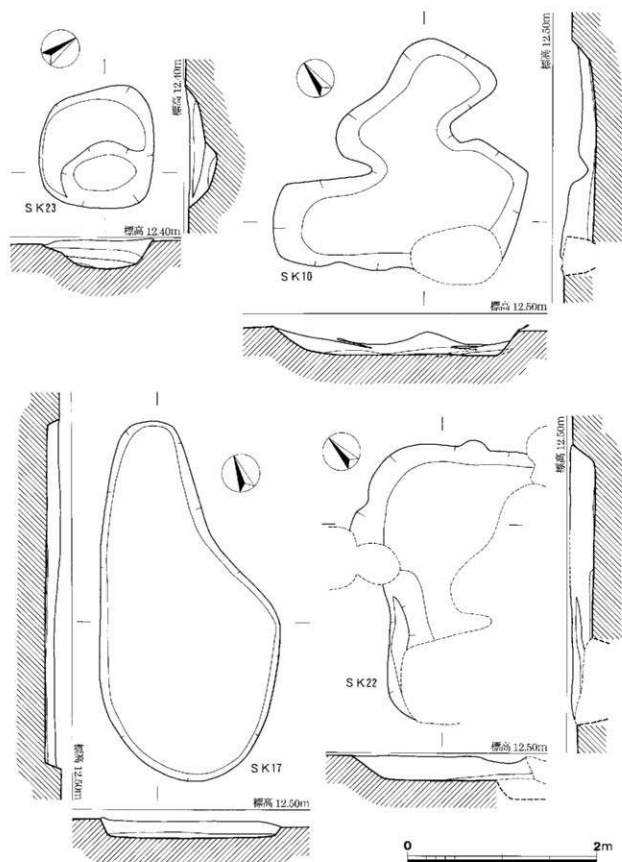
SD37 (第4図、図版3) 調査区中央部を南東～北西走行する溝。遺構の両端は調査区外へ延びているが、20.7m分を検出した。上端部幅1.0m前後、下端部幅約0.4m、深さ30 cm前後を測り、断面は逆台形状を呈する。底面レベルは北西側から南側に向かって深くなっている。埋土は検出面から厚さ約15 cmの黒灰色シルト層、その下のマンガン分を多量含む暗褐色土に大別される。黒灰色シルト層からは多量の棧瓦が出土。南壁の中央部約5.5m分のみは、9個の切石が並べられている。この溝の北壁側は現代のコンクリート溝の埋設によって攪乱されていたが、本来は北側上端部から約3.0m北側以北の上段遺構検出面と同じく60～100 cm高くなっていたと推定される。

SD49 (図版3) SD37の北側で検出した南北溝。南側は攪乱、北側は調査区外へ延びているが5.5m分を検出した。幅約50 cm。西壁は一辺30 cm前後の花崗岩を並べ、東壁は片岩・花崗岩の板石を2段積みする。底面は漆喰が塗られている。埋土は炭化物、焼土を多量に含む褐色土で、ガラス製薬瓶が多数出土した。SD52、SK53・54 よりもこの遺構が後出する。

SD52 西側はSD49によって失われ、東側は調査区外へ延びているが、2.8m分を検出した東西溝。幅約60 cm、深さ約50 cmを測る。埋土は暗褐色土。遺物は白磁細片4点が出土したのみ。SK54 よりも後出する。

土坑

SK1 (第5図、図版3) 調査区南西部で検出。遺構の北側は調査区外に延び、南側は攪乱や



第6図 SK10・17・22・23実測図 (1/40)

後出するSD6によって失われているが、平面形は長方形と推定される土坑である。長軸は3.6m分を検出し、短軸は2.8m、深さは約1.5mを測る。北東隅には地山を削り残して4段の階段を設けている。底面は平坦であるが、東側から西側へ若干傾斜し、ピットなどは検出されていない。

SK3 調査区南西部で検出。遺構の大半は調査区外にあり、西側は攪乱によって失われているため全容は不明。東西1.6m分、南北60cm分を検出。深さ約40cm。遺物は全く出土していない。

SK4 (第5図、図版3) SK3の東側で検出。平面形は長軸1.6m、短軸90cmを測る楕円形を呈し、深さは約40cm。埋土は炭化物が多量に含まれた暗灰色土、底面付近は黄色粘質土が多量含まれた明褐色土。

SK5 (第5図、図版3) SK2、SK4よりも先行する土坑である。長軸1.5m分、短軸約60cmを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土の状況はSK4と同様である。

SK9 (図版4) 調査区南端部で検出。長軸3.2m、短軸1.5mの不整楕円形の土坑。深さは北壁側で約20cm、南側は上部が削平を受けているため約5cmが残存するのみ。底面は平坦である。埋土は灰色粘質土。北端部からは底面よりも約10cm浮いた状態で18世紀後半～19世紀前半代の陶磁器や木片が多数出土した。SK10よりも後出し、SK12よりも先行する

SK10 (第6図、図版4) SK1・22に後出し、SK9よりも先行する土坑。2.5m前後の不整形土坑である。深さは約30cm。埋土は暗灰色粘質土。調査時には明確にできなかったが、複数の土坑が重複したものであることも想定される。

SK12 SK9よりも後出し、SD13よりも先行する土坑。長軸2.0m分、短軸1.5mの楕円形土坑。埋土は灰色土であるが、マンガン分が多量沈着していた。遺物は全く出土していない。

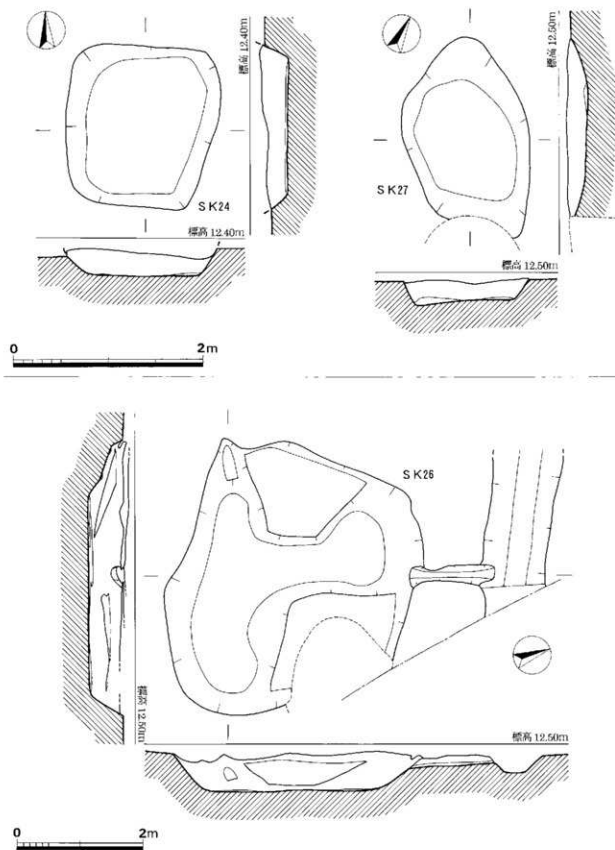
SK17 (第6図、図版4) SK12の北東側で検出。長軸3.6m、短軸1.9mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は灰色土であるが、腐食した木材、藁もしくは茅と見られる有機物が多量に含まれていた。SD13よりも後出する。

SK22 (第6図、図版4) SK10に掘り込まれているため全容は不明であるが、2.8m以上の規模を持つ土坑。深さ約30cmを測り、底面は平坦。6世紀後半～7世紀初頭の須恵器の坏身2点、坏蓋2点、丹塗土師器坏身1点が出土しており、小規模な堅穴住居であったことも考えられる遺構である。

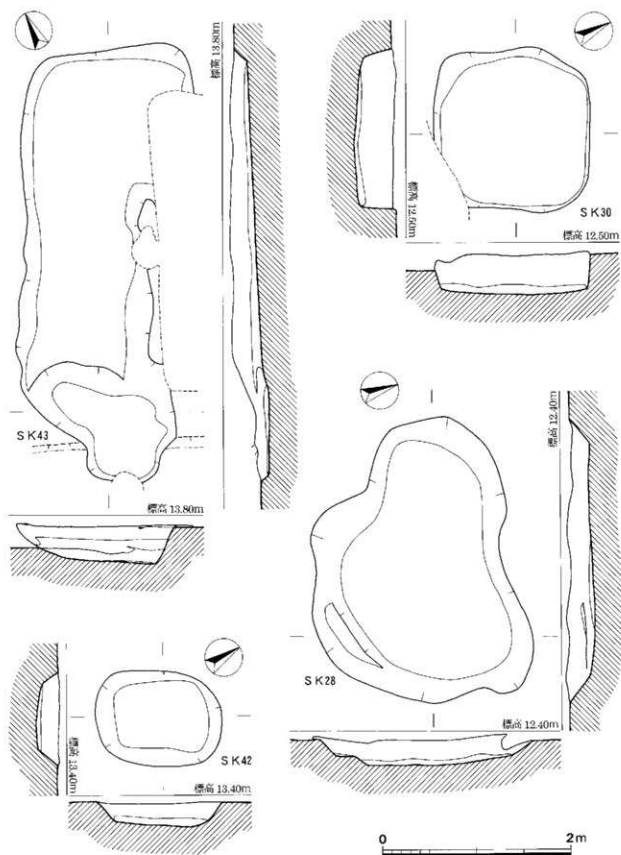
SK23 (第6図、図版4) 調査区中央部で検出。平面形は一辺1.2mの隅丸方形。深さは約15cm。東側はさらに15cm深くなっている。遺物は北東隅部に集中し、陶器行平鍋2個体分などが出土した。

SK24 (第7図、図版4) SK23の東側に掘られていた攪乱を除去した後に検出。一辺1.7m前後の隅丸方形を呈し、深さは約30cm。埋土は青灰色シルトで、埋土中には型紙刷りの陶磁器や木片が出土した。

SK26 (第7図、図版3) SK24の北側で検出。南北4.6m、東西4.3mの楕円形土坑。深さ最深部は60cmを測るが、20～40cmの区間には西側に2段、東側に1段のテラスを有する。北側に



第7図 SK24・26・27実測図 (1/40、1/60)



第8図 SK28・30・42・43実測図 (1/40)

はSD37と連結する長さ1.3m、幅25cm、深さ約10～20cmの小溝を持つ。溝底の高低差からSD37からSK26へ水を導入していたと見られ、園池であったことが考えられるが、常時滞水していた形跡は認められない。SE40よりも後出し、SK29よりも先行する。

SK27 (第7図) SK21の北側で検出。南側をSE31に切り込まれているが、長軸1.9m分を検出。短軸1.3m、深さ26cmを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は暗褐色土であるが、埋土中には腐食した木質が多量に含まれていた。

SK28 (第8図、図版4) SK27の東側で検出。平面形は長軸3.0m、短軸2.2mの楕円形を呈する土坑である。深さ約30cm。埋土は暗褐色土であるが、多量の木質、黄色砂質土、コークス灰が含まれていた。SK30よりも後出する。

SK29 (図版7) SK26を掘り込む土坑。遺構は東側調査区外へ延びているが、南北2.1m分、東西1.3m分を検出。掘り下げは約50cmに止めている。埋土はコークス灰を多量に含む灰色土。

SK30 (第8図) 南側をSK28に切り込まれているが、一辺1.7m前後の隅丸方形を呈すると見られる土坑である。深さ約30cm。埋土は多量の黄色砂質土のブロックを含む赤褐色土。

SK36 (図版4) 一辺1.4mの方形を呈する土坑。掘り下げは1.3mに止めている。

SK41 調査区北部で検出。長軸1.5m、幅約70cm、深さ45～50cmを測る長方形土坑。埋土は暗褐色土。

SK42 (第8図) SK41の北西側で検出。長軸1.2m、短軸1.0mを測る隅丸長方形の土坑。深さは約20cm。底面は平坦。埋土は黒色土。陶器摺鉢片や磁器菊文染付筒型碗などの細片が出土。

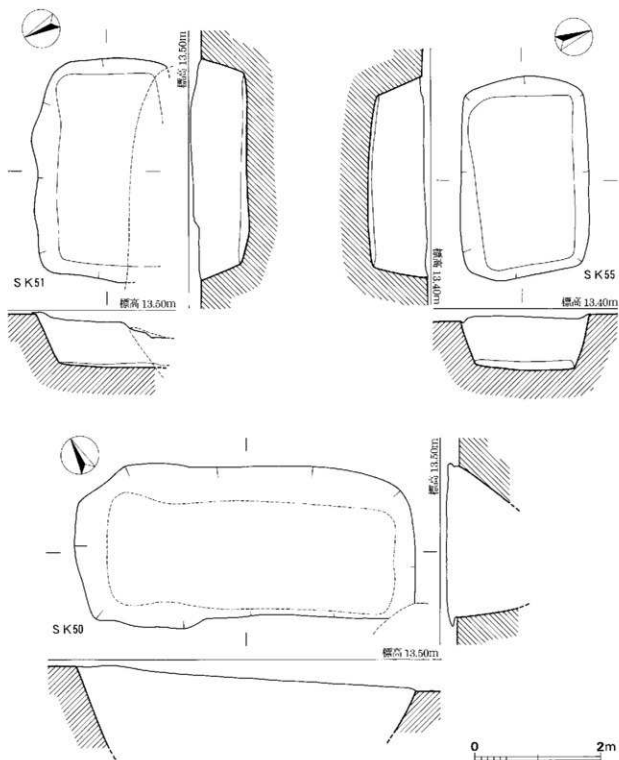
SK43 (第8図、図版5) 調査区北端部で検出。東側は攪乱により失われているが、長軸4.5m、短軸1.7m分を検出し、長方形と推定される土坑である。深さは約20cm。南部のみさらに20cm深く掘られている。埋土は暗褐色土。その規模に比べて遺物は少なく、染付磁器1点、白磁2点、摺鉢3点、陶器7点、土師質焙烙2点のいずれも細片資料が出土したのみである。

SK50 (第9図、図版5) SK43の南側で検出。平面形は長軸5.5m、短軸2.6mを測る長方形を呈する土坑。掘り下げは1.3m、西端部のみは1.5mまでの掘り下げに止めた。その面からピンボールを刺してみたが、全く底面の感触は得られず、2m以上の深さがあるものと考えられる。埋土は多量の黄色砂質土を含む暗褐色土。SK51・54よりも後出し、SD53よりも先行する。

SK51 (第9図、図版5) 後出するSK50によって南側は失われているが、長軸3.6m、短軸は1.8m分を検出、平面形は長方形と推定される土坑である。底面は平坦でビットなどは検出されていない。深さは約90cm。埋土は明褐色土を多量に含む暗褐色土。

SK53 後出するSK50、SD52によってその大半が失われているため全容は不明であるが、東西長4.1m分を検出。南北幅約80cm、深さ約70cmを測り、断面は逆台形状を呈する。染付磁器3点、色絵磁器1点、白磁2点、陶器6点、土鍋2点の細片資料が出土。

SK54 SD49・52、SK50・51・53よりも先行する土坑。掘り下げは東端部に止めたため全容は不明であるが、東西3.2m分、南北2.2m分を検出し、平面形は長方形と見られる。東端部には



第9図 SK50・51・55実測図 (1/60)

井戸枠が設けられていたことも考えられるが、その一段の平坦面があり、深さは約20～40cmを測る。埋土は黒色土。

SK55 (第9図、図版5) SK42の南側で検出。長軸3.2m、短軸2.0mを測る隅丸長方形の土坑である。深さ約90cm。底面は平坦。東側からはピット1基を検出。埋土は明褐色土を多量に含

む暗褐色土。

井戸

SE7 (第10図) 調査区南部で検出。平面形は直径約1.9mの円形。埋土は黄色粘質土と炭化物を多量に含む灰色土。井戸枠は検出されず、素掘りの井戸と考えられる。埋土は黄色粘質土と炭化物を多量に含む灰色土。掘り下げは約1.0mに止めている。

SE8 (第10図、図版5) SE7の南西部で検出。検出面で直径2.0mを測る。検出面から95cm掘り下げた場所より下では直径約1.4mと狭くなり、断面は漏斗状を呈する。その形状から上痕跡は検出されていない。埋土は検出面から約40cmまでは暗褐色土、それ以下は灰色砂質土である。掘り下げは約1.4mに止めている。

SE11 (第10図、図版5) SE7の西側で検出。平面形は長軸2.0m、短軸1.8mの楕円形を呈する素掘り井戸である。検出面から約20cm下方まではコークス灰が充満していたが、それより下部の埋土は黄色砂質土と炭化物を多量に含む灰色土。掘り下げは約1m分に止めている。

SE25 (第10図) 調査区中央部東側で検出。平面形が直径1.0mの円形を呈する素掘りの井戸。埋土は多量の褐色土を含む黄色砂質土。掘り下げは約1.0mに止めており、遺物は陶器の掬鉢1点、皿1点、細片1点、土師器細片6点のそれぞれ細片資料が出土したのみである。

SE31 (第10図、図版5) SK27よりも先行する井戸。直径約1.0mの円形を呈し、深さ80cmで底面に達したが、全く湧水した痕跡がなく、掘り下げを途中で停止した井戸と想定される。埋土は黄白色砂質土を多量に含む暗褐色土。埋土中からは土師器小皿が12枚、底面からも土師器小皿が1枚出土した。いずれも灯明皿として利用されたもので、口縁部には油煙の付着が見られるが、底面出土の小皿のみ色調が黒色を呈し、その他に埋土中から出土した小皿は色調が白色という違いが見られる。

SE32 (第11図) SE31の東側で検出。平面形は直径1.5mの円形を呈する素掘りの井戸。掘り下げは約60cmに止めている。埋土は炭化物・焼土・黄色砂質土を多量に含む暗褐色土であるが、検出面付近のみは約5cmの厚さで黄色粘土が貼られ、固く締められていた。

SE34 (第11図、図版5) 中央区西端部で検出。平面形は直径約80cmを測る円形を呈する素掘りの井戸。掘り下げは約1.0mに止めている。埋土は褐色土で、埋土中からは青磁壺頸部1点、瓦質土器片25点、丸瓦1点、土鍋5点、須恵器高坏1点、甕胴部4点のいずれも細片資料が出土した。

SE40 (第11図) SK26を掘り下げた後に検出された素掘り井戸。平面形は直径約90cmの円形。掘り下げは約90cmに止めている。埋土は黄色砂質土を多量に含む暗褐色土。

SE44 (第11図) 北調査区北東部で検出。平面形は長軸1.3m、短軸1.2mの楕円形を呈し、埋土は明褐色土を多量含む褐色土。掘り下げは1.3mに止めている。遺物は磁器端反碗が1点出土したのみ。

SE45 (第11図) SE44の南西側で検出。平面形は長軸1.2m、短軸1.0mの楕円形を呈する。

埋土は明褐色土を多量に含む黒色土。掘り下げは1.0mまでに止めている。遺物は図版に掲げた焼塩壺蓋1点、同身2点の他、染付磁器3点、色絵磁器1点、陶器の捏鉢6点、碗1点のいずれも細片資料が出土している。

不明遺構

SX2 調査区南西部で検出。南北2.7m、東西3.6mの範囲を鋸形に掘り下げた遺構である。底面より3cmほどの厚さに真砂土を敷き、その上に厚さ2cmの板材を底面と側面に巡らしている。板材は全面が焼けて炭化しており、その内部には焼土や焼瓦、炭化物が充満していた。

ビット

SP33 調査区南西部、SX2の南側で検出。長軸80cm、短軸50cm、深さ40cmを測るビット。埋土は黒色土。

SP38 調査区中央部、SK26の北西側で検出。長軸90cm、短軸20cmを測る楕円形のビットである。深さは約20cm。

SP39 SP38の西側で検出された攪乱を除去した後に検出。長軸60cm、短軸40cm、深さ15cmを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は黄色砂質土を多量に含む暗褐色土。

3. 出土遺物

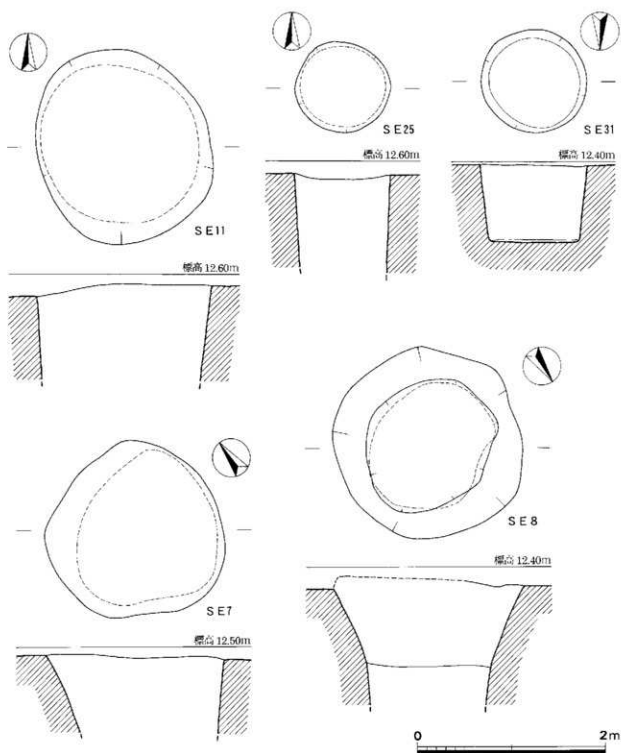
近世～近代の陶磁器を中心にコンテナ21箱分の遺物が出土している。その内容は、染付磁器、色絵磁器、白磁、青磁、陶器、土師器、瓦質土器、瓦類、銅製品、須恵器などである。時期としては江戸時代末期から明治時代のものが最も多く、次いで江戸時代後期や大正時代～昭和初期の遺物が多い。また、SK22やSP33からは6世紀後半～7世紀初頭の土師器や須恵器が出土している。

主な出土遺物の詳細は第1～4表と図版6～14を参照されたい。

4. 総括

各遺構の時期について

遺構の時期については、まず最も古い遺構は、SK22、SP33である。出土した須恵器などの時期から6世紀後半代～7世紀初頭の時期に比定される。後代の遺構に流入した遺物であるが、この時期の須恵器身の破片はSK55からも1点出土しており、この時期の遺構が僅かに分布していることが判明した。中世の様子も不明な点が多い。調査地においても中世にまで遡る可能性がある遺構としてはSE4が挙げられる程度であるが、完掘していないため確定できない。近世に入り、京限地区は元和7年(1621)～同9年(1623)の間に武家屋敷地として整備されているが、調査地では近世初期の遺構は少なく、SK1が17世紀後半代と見られる程度である。続く18世紀も前半代にはまだ遺構が少ない。SK36がこの時期の遺構と見られるが、完掘するに至らず、時期は確定できない。後半代になるとSK5・45・48、SE40が挙げられる。19世紀前半になると、SK4・9・21・23・42・46・51・54・55、SE32・44が出現し、後半にはSD52、SK30・50・53、11・31がある。SD35・37・49・52、SK17・24・26～29・41、SE7・8、SP38・39は明治時代から昭和初期に所属する。

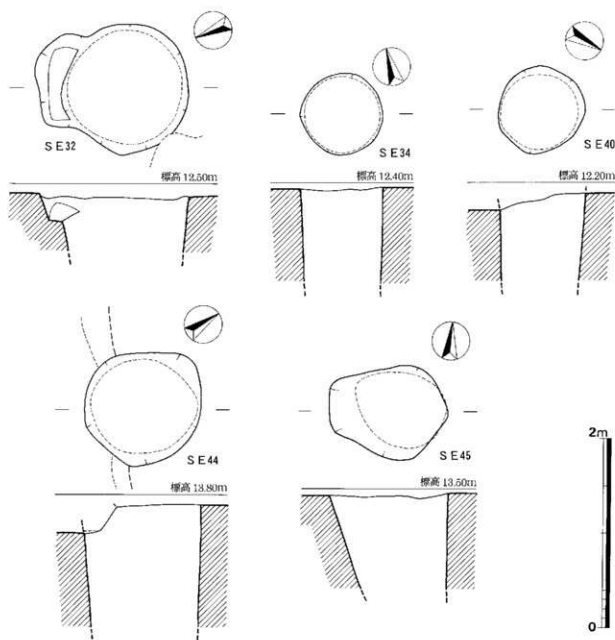


第10図 SE 7・8・11・25・31実測図 (1/40)

SD 6・13・37について

今回検出された遺構の中で最も注目される遺構は、溝SD 6・13・37である。この溝をそれぞれ調査区外へ延長すると、SD 6とSD 13で 89° 、SD 13と37で 87° とそれぞれ直交の関係にあることが判明する。コーナー部を検出出来なかったが、位置関係から屋敷地を囲む溝と判断される。

天保年間絵図によれば、当地は150石取りの武士城家の屋敷地であることが判明する。屋敷の北限溝にあたるSD37と南限溝SD6では心々距離で33.0mを測り、久留米藩における1間約1.96mで換算すると屋敷地は南北ほぼ19間である。この溝は、土地台帳を見ると明治29年時点まで城家の子孫・一族と考えられる方が所有しているが、明治39年には九州鉄道用地となっている。この区画の終焉は九州鉄道久留米駅が開業する明治23年頃と推定されるが、SD37については昭和初期まで機能していたことが想定される。また、北隣は星野家の屋敷地となっているが、SD37を境に約1m星野家側が高くなっている。周辺で行った第7次調査の成果などからも、南側に所在する池状地形に向かって土地が低くなっている状況が判明しており、この京隈小路四番目筋は北側から南側へ向かって雑壇状に武家屋敷地が造成されていることが判明した。



第11図 SE32・34・40・44・45実測図 (1/40)

第1表 京限特屋敷遺跡第20次調査出土遺物観察表①

遺物No.	出土遺物	種 別	器 種	法 量		出土 数量	器 形・器 種			底面・高台内 寸法等	特 徴	製作地・出土	年代・備考	登録番号
				口径 (cm)	底径 (cm)		外面	内 面	見込み					
1 遺物6	SK1	磁器	碗	—	4.2	(4.8)	染付	山水文		大明年製	肥前系		200920 -000001	
2 遺物6	SK1	磁器	碗	[14.8]	[5.8]	7.1	染付	龍鳳文様	龍鳳 文様		肥前系		200920 -000002	
3 遺物6	SK1	磁器	碗	[9.0]	5.0	6.6	染付	丸窓若杉文		見立文 書付に砂付書	肥前系		200920 -000003	
4 遺物6	SK1	磁器	碗	[10.2]	[5.0]	6.6	染付	草文			肥前系		200920 -000004	
5 遺物6	SK1	磁器	小碗	7.6	3.0	4.5	染付	山水文		「福」 書付に砂付書	肥前系		200920 -000005	
6 遺物6	SK1	磁器	皿	[14.2]	[5.0]	2.9	染付		竹文		肥前系		200920 -000006	
7 遺物6	SK1	磁器	大鉢	[25.0]	[9.0]	7.0	染付	山水文			肥前系		200920 -000007	
8 遺物6	SK1	白磁	碗	[10.8]	4.6	6.9	透明				書付に 砂付書		200920 -000008	
9 遺物6	SK1	白磁	鉢	16.2	6.1	7.6	透明						200920 -000009	
10 遺物6	SK1	陶器	大皿	20.8	6.2	3.1	灰釉			砂目四箇所	砂目五箇所	横線口縁	南唐	200920 -000010
11 遺物6	SK1	陶器	皿	14.9	4.9	3.9	銀絵輪			蛇の目 輪刻ぎ		内野山系		200920 -000011
12 遺物6	SK1	陶器	花生	10.4 11.0	—	(18.0)	緑釉					耳付		200920 -000012
13 遺物6	SK1	陶器	哲鉢	—	—	(8.2)	二部							200920 -000013
14 遺物6	SK1	陶器	香炉	[13.0]	—	(4.9)	鉄釉	銅毛						200920 -000014
15 遺物6	SK1	陶器	瓶	—	—	(11.8)	鉄釉		タタキ (青磁説)					200920 -000015
16 遺物6	SK1	陶器	磁鉢	—	8.3	(14.3)	陶釉							200920 -000016
17 遺物6	SK1	陶器	磁鉢	—	11.0	(8.3)	陶釉					横目9本		200920 -000017
18 遺物6	SK1	陶器	磁鉢	—	—	(13.0)	陶釉					横目10本		200920 -000018
19 遺物6	SK1	土師器	小皿	7.7 8.0	4.0	1.9	浅黄釉	ヨコナゲ	ヨコナゲ	赤切り	染付付書	精良		200920 -000019
20 遺物6	SK1	土師器	小皿	8.2	3.9	1.9	浅黄釉	ヨコナゲ	ヨコナゲ	赤切り		精良		200920 -000020
21 遺物6	SK1	土師器	小皿	8.3	4.0	1.9 1.9	にじみ黄釉 ・黒釉	ヨコナゲ	ヨコナゲ	赤切り		龍形蛇(長石)		200920 -000021
22 遺物6	SK1	土師器	小皿	8.5 8.7	4.4	2.1	にじみ黄釉	ヨコナゲ	ヨコナゲ	赤切り	染付付書	精良		200920 -000022
23 遺物6	SK1	土師器	小皿	8.7 8.8	4.5	1.9 2.2	灰白	ヨコナゲ	ヨコナゲ	赤切り	染付付書	龍形蛇 (黄砂・長石)		200920 -000023
24 遺物6	SK1	土師器	小皿	8.7 9.0	4.7	2.1	灰白	ヨコナゲ	ヨコナゲ	赤切り	染付付書	龍形蛇 (黄砂・長石)		200920 -000024
25 遺物6	SK4	磁器	小鉢	[6.2]	4.8	4.9	染付	草文						200920 -000025
26 遺物6	SK4	陶器	皿	—	6.2	1.5	灰釉 染付			五車文		龍戸黄濃		200920 -000026
27 遺物6	SK4	磁器	皿	[20.0]	(12.0)	3.0	染付	唐草文	雲文		雲唐文	肥前系		200920 -000027
28 遺物6	SK4	磁器	増反碗	[11.0]	4.2	6.0	染付	草花・流水文	草花			肥前系		200920 -000028
29 遺物6	SK4	土師器	小皿	—	3.7	0.7	にじみ黄釉	ヨコナゲ	ヨコナゲ	赤切り	真面に 穿孔有り	龍形蛇(赤色 砂子・石炭)		200920 -000029
30 遺物6	SK4	陶器	ハヤ	6.7	2.6	0.8	陶釉			赤切り				200920 -000030
31 遺物6	SK4	陶器	ハヤ	7.8	3.8	2.0	陶釉			赤切り				200920 -000031
32 遺物6	SK4	陶器	タンコロ	8.0	3.9	3.1	陶釉			赤切り				200920 -000032
33 遺物6	SK4	瓦	軒平瓦	(10.7)	(17.8)	4.5	増灰					唐草文		200920 -000033
34 遺物6	SK4	陶器	鉢	14.2	6.0	4.5	増灰色釉					輪花		200920 -000034
35 遺物6	SK4	陶器	鉢	14.2	6.1	4.3 4.5	増灰色釉					輪花		200920 -000035
36 遺物6	SE7	陶器	碗	—	5.0	(1.2)	陶釉			「小松古」 スタンプ		京焼風		200920 -000036
37 遺物6	SK5	土師器	小皿	10.4	3.8	5.1	灰釉	竹文						200920 -000037
38 遺物6	SK6	土製品	動巻	6.4	4.6	7.0	にじみ黄釉	ナゲ	ナゲ	赤切り		龍形蛇(長石)		200920 -000038
39 遺物6	SE7	陶器	小皿	8.8	3.1	4.9	灰釉					貫入あり		200920 -000039
40 遺物6	SE7	陶器	角鉢	[11.0]	[6.0]	7.0	二部	杉文	杉文			龍部		200920 -000040
41 遺物7	SE7	磁器	碗	[10.0]	[4.7]	6.6	染付	五人唐子				型紙刷	肥前系	200920 -000041
42 遺物7	SE7	磁器	碗	10.5	4.2	5.7	染付	草文	草文			肥前系		200920 -000042
43 遺物7	SE7	磁器	碗	11.4	5.0	6.2	染付	雲・梅・菊文				肥前系		200920 -000043
44 遺物7	SE7	磁器	碗	10.8	—	1.7	染付	五人唐子				型紙刷	肥前系	200920 -000044
45 遺物7	SE7	磁器	碗	10.6	4.8	6.8	染付	五人唐子				型紙刷	肥前系	200920 -000045
46 遺物7	SE7	磁器	井	—	8.0	(7.2)	染付	雲龍文	雲龍文			肥前系		200920 -000046
47 遺物7	SE7	磁器	小皿	11.2	6.0	1.9	染付	孔雀文				銅版	龍戸黄濃	200920 -000047
48 遺物7	SE7	磁器	皿	13.0	7.1	3.6	染付	草文				輪花		200920 -000048
49 遺物7	SE7	磁器	小皿	6.4	3.1	4.4	色絵 金砂	桃・市松 「桃市松」				肥前系		200920 -000049
50 遺物7	SE7	青磁	碗	11.2	3.5	4.3	染付青磁	梅	龍部					200920 -000050

第2表 京限付屋敷遺跡第20次調査出土遺物観察表②

遺物ID	出土遺物	種別	器種	測量		形状・胎地	図面・備考			産地・高台内 印紋等	特徴	製作地・出土	年代・備考	登録番号
				口径 (cm)	高さ (cm)		外面	内面	見込み					
51 遺跡7	S E 7	磁器	御神酒徳利	2.0	4.2	(8.7)	色絵	松竹梅文				肥前系		200920 -000070
52 遺跡7	S E 7	青磁	ミニチュア瓶	1.0	1.3	2.8	明緑沢	丸に十字						200920 -000071
53 遺跡7	S E 7	陶器	土瓶	8.3	7.0	9.4	灰釉					三足付		200920 -000065
54 遺跡7	S E 7	陶器	行平鉢	(15.4)	4.1	4.6	焼物							200920 -000066
55 遺跡7	S E 8	磁器	小皿	7.0	2.2	2.5	染付	花卉文・「五山」			豊村に 砂付	肥前系		200920 -000084
56 遺跡7	S E 8	磁器	小皿	9.0	5.2	1.9	染付	雲文	山水・渡時			肥前系		200920 -000081
57 遺跡7	S E 8	磁器	角鉢	—	8.1	3.4	染付	雲文	山水・渡時			型押	肥前系	200920 -000080
58 遺跡7	S E 8	磁器	小角皿	8.0×8.4	4.8×5.2	2.6	染付		蟹			型押・口縁	瀬戸系	200920 -000078
59 遺跡7	S E 8	磁器	小角皿	8.0×8.4	4.8×5.2	2.6	染付		蟹			型押・口縁	瀬戸系	200920 -000079
60 遺跡7	S E 8	磁器	小皿	10.8	6.3	2.5	染付	山水文	蓮文			肥前系		200920 -000082
61 遺跡7	S E 8	磁器	湯洗鉢	9.1	3.5	5.1	染付	竹文						200920 -000077
62 遺跡7	S E 8	白磁	紅皿	—	—	1.7	透明	動物草				肥前系		200920 -000095
63 遺跡7	S E 8	白磁	紅皿	4.5	1.3	1.4	透明	具				肥前系		200920 -000094
64 遺跡7	S E 8	白磁	戸皿	5.3	5.3	1.1	透明					蓋面面に 砂付	肥前系	200920 -000093
65 遺跡7	S E 8	白磁	鉢	17.0~ 17.5	8.5	5.8	透明		和唐文		豊村に 砂付			200920 -000092
66 遺跡7	S E 8	白磁	鉢	17.0~ 17.5	8.2	5.8	透明		和唐文		豊村に 砂付			200920 -000091
67 遺跡7	S E 8	陶器	行平鉢	15.2	4.0	4.6	焼物						東野寺焼	200920 -000089
68 遺跡7	S E 8	土製品	燈籠	18.5	13.0	3.3	燈						磯砂焼(赤色蛇 子・長石・雲母)	200920 -000102
69 遺跡7	S E 8	陶器	行平鉢	15.8	7.4	8.7	灰釉				把手付			200920 -000088
70 遺跡7	S E 8	土製品	火筒	(10.0)	12.0	12.2	にびり	ヨコナデ	ヨコナデ		内外面に 横付	磯砂焼 (長石・雲母)		200920 -000104
71 遺跡7	S E 8	陶器	行平鉢	(8.1)	3.2	2.0	灰釉						東野寺焼	200920 -000090
72 遺跡7	S E 8	陶器	土瓶	—	(6.8)	(2.4)	灰釉						書書「ヨリ」	200920 -000086
73 遺跡7	S E 8	陶器	不明	—	—	(0.8)	焼物						書書「カサ」	200920 -000087
74 遺跡7	S E 8	陶器	皿	4.2	—	(10.2)	緑釉				イッピン餅付			200920 -000085
75 遺跡7	S E 9	磁器	皿	—	5.5	(1.8)	色絵	花唐草文				肥前系		200920 -000119
76 遺跡7	S K 9	磁器	小皿	10.0	6.2	2.5	染付	唐草文	花唐草文	松竹梅文「歳化年製」		肥前系		200920 -000108
77 遺跡7	S K 9	磁器	小皿	10.7	7.0	2.5	染付		山水・渡時		口縁	肥前系		200920 -000109
78 遺跡7	S K 9	陶器	小瓶	7.2~ 7.5	2.8	3.5	染付	雲文				肥前系		200920 -000118
79 遺跡7	S K 9	磁器	碗	(12.2)	4.6	5.7	染付	観文	蘭蘭	玉草花	カンコナヤ焼 (くしあかん)	肥前系		200920 -000110
80 遺跡7	S K 9	磁器	角鉢	—	—	(6.0)	染付	蘭・鳥散文				肥前系		200920 -000117
81 遺跡8	S K 9	陶器	盃	(26.4)	—	(15.8)	二部	松文				肥前系		200920 -000114
82 遺跡8	S K 9	陶器	土瓶	7.5	—	(7.4)	焼物				外面面に 横付			200920 -000113
83 遺跡8	S K 9	陶器	長瓶	3.5	7.5	20.5	灰釉							200920 -000111
84 遺跡8	S K 10	土製品	土鈴	7.2	—	8.4	燈	ナデ	ナデ			磯砂焼(赤色蛇 子・雲母・長石)		200920 -000122
85 遺跡8	S K 10	土製品	土鈴	—	—	(7.0)	暗褐色釉	ナデ・刷毛目	ナデ・ 刷毛目		外面に横付			200920 -000123
86 遺跡8	S K 10	瓦	軒平瓦	(6.0)	(15.8)	4.2	埋灰					唐草文		200920 -000121
87 遺跡8	S K 11	磁器	小皿	8.6	5.1	2.0	染付		草花文		型押・口縁	肥前系		200920 -000130
88 遺跡8	S K 11	磁器	小丸瓶	8.1	4.0	4.3	染付	福寿文 ・山水文			口先	肥前系		200920 -000125
89 遺跡8	S K 11	磁器	小丸瓶	7.8	3.1	5.0	染付	雲文		十字花		肥前系		200920 -000127
90 遺跡8	S K 11	磁器	小皿	6.2	3.0	3.2	色絵	文字	菊花		型押	肥前系		200920 -000124
91 遺跡8	S K 11	磁器	碗	9.4	3.9	4.8	染付	藤文		品出		肥前系		200920 -000125
92 遺跡8	S K 11	磁器	小丸瓶	8.2	3.2	5.6	染付	若杉文	藤文			肥前系		200920 -000126
93 遺跡8	S K 11	陶器	鉢	12.1	3.7	4.3	色絵		雲文					200920 -000122
94 遺跡8	S K 11	陶器	碗	9.5	3.6	5.1	灰釉 緑釉							200920 -000135
95 遺跡8	S K 11	磁器	御神酒徳利	—	4.7	(10.6)	染付	動物草文				肥前系		200920 -000131
96 遺跡8	S K 11	磁器	仏花瓶	—	5.6	14.2	染付	草花文			豊村に 砂付	肥前系		200920 -000128
97 遺跡8	S K 11	陶器	灯明皿	7.6	2.8	1.9	焼物				赤切り			200920 -000138
98 遺跡8	S K 11	陶器	灯明皿	8.2	3.5	2.1	焼物				赤切り			200920 -000139
99 遺跡8	S K 11	陶器	灯明皿	8.8	4.2	2.3	焼物				赤切り			200920 -000140
100 遺跡8	S K 11	陶器	盃	—	8.7	10.4	焼物							200920 -000137

第3表 京限侍屋敷遺跡第20次調査出土遺物観察表③

遺物ID	出土遺物	種別	器種	測量		出土位置	図面・写真			産産・高台内 印紙等	特徴	製作地・出土	年代・備考	登録番号	
				口径 (mm)	高さ (mm)		外面	内面	見込み						
101 遺跡9	S K11	陶器	土瓶	11.9	6.8	12.2	緑釉						200920 -000136		
102 遺跡9	S K11	土師器	埴	[10.8]	5.5	2.0	灰白・黒	ヨコナデ	ヨコナデ	赤切り		精良	200920 -000143		
103 遺跡9	S K11	土師器	埴	[10.8]	5.7	2.3	灰白・黒	ヨコナデ	ヨコナデ	赤切り	数分付着	精良	200920 -000144		
104 遺跡9	S K11	土師器	埴	[10.4]	5.5	2.0	灰白・黒	ヨコナデ	ヨコナデ	赤切り	数分付着	精良	200920 -000145		
105 遺跡9	S K11	土師器	埴	[11.6]	7.8	2.1	明灰・黒	ヨコナデ	ヨコナデ	赤切り	数分付着	精良	200920 -000146		
106 遺跡9	S K11	土師器	タンコロ	4.8	2.4	1.8	焼				「下器」編組	微砂粒(長石)	200920 -000150		
107 遺跡9	S K11	土師器	小皿	6.7	4.3	1.2	浅黄緑	ヨコナデ	ヨコナデ	赤切り	内面に産産	微砂粒(雲母)	200920 -000148		
108 遺跡9	S K11	土師器	小皿	7.0	4.2	1.1	焼灰	ヨコナデ	ヨコナデ	赤切り	数分付着	微砂粒(雲母)	200920 -000147		
109 遺跡9	S K11	土師器	小皿	7.3	3.4	1.5	焼	ヨコナデ	ヨコナデ	赤切り	数分付着	微砂粒 (赤色粒子)	200920 -000149		
110 遺跡9	S K11	陶器	片口鉢	23.6	11.2	9.8	黄釉						200920 -000151		
111 遺跡9	S K11	土製品	鉢大鉢	24.6	20.4	9.6	焼			灰口赤黄 土・黄印着	数分付着	微砂粒(赤色粒子) ・雲母・長石	200920 -000152		
112 遺跡9	S D13	磁器	大皿	[12.0]	12.8	3.0	染付	唐草文	竹文・雲文			肥前系	200920 -000158		
113 遺跡9	S D13	磁器	小皿	7.3	2.2	3.2	染付	唐草文				肥前系	200920 -000161		
114 遺跡9	S D13	磁器	小皿	8.3	5.1	1.5	染付		唐草文			肥前系	200920 -000159		
115 遺跡9	S D13	磁器	碗蓋	8.7	3.9	2.7	染付	唐草文	唐草文	十字花		肥前系	200920 -000162		
116 遺跡9	S D13	磁器	碗蓋縁	[11.4]	4.8	6.0	染付	唐草・唐文	西方唐文	唐氏唐文		肥前系	200920 -000164		
117 遺跡9	S D13	磁器	瓶	1.7	5.0	15.4	染付	松竹梅文・ 雲霞草文				肥前系	200920 -000157		
118 遺跡9	S D13	陶器	茶碗	4.2	5.3	10.4	黄釉						200920 -000165		
119 遺跡9	S D13	陶器	花瓶	5.3	6.0	16.5	白黄釉						200920 -000167		
120 遺跡9	S D13	陶器	灯籠笠	—	—	15.7	灰・硝灰					瓦質	精良(雲母)	200920 -000170	
121 遺跡9	S D14	青磁	碗	[10.8]	4.2	6.8	明緑灰						200920 -000193		
122 遺跡9	S D15	磁器	瓶	—	5.3	(3.8)	染付	唐草			器付に 砂付着	肥前系	200920 -000194		
123 遺跡9	S K17	陶器	碗	[9.4]	(3.8)	6.5	灰釉	唐文				型刷削	200920 -000197		
124 遺跡9	S K17	陶器	大甕	38.6	—	(7.3)	黄釉						200920 -000200		
125 遺跡9	S K17	陶器	小甕	—	—	(4.7)	染付	唐草文				型押	200920 -000196	近代	
126 遺跡9	S K17	土師器	灯明皿	8.6	4.5	1.7	浅黄緑	ヨコナデ	ヨコナデ	赤切り	数分付着	微砂粒 (雲母・長石)	200920 -000199		
127 遺跡9	S K22	瓦	軒瓦	26.4	(16.5)	4.6	硝灰					花唐草文	200920 -000201		
128 遺跡9	S K21	陶器	甕	—	—	(11.8)	硝灰色釉						200920 -000202		
129 遺跡9	S K21	土師器	埴	9.6	5.5	2.0	浅黄緑	ヨコナデ	ヨコナデ	赤切り・ナデ		微砂粒 (雲母・長石)	200920 -000203		
130 遺跡9	S K21	磁器	皿	12.2	7.3	3.3	染付	花文			瓶の目 印着あり	肥前系	200920 -000201		
131 遺跡9	S K22	磁器	散り蓋	4.8	2.6x3.1	(2.4)	染付	唐文				肥前系	200920 -000205		
132 遺跡9	S K22	陶器	香炉	9.6	4.7	4.1	灰釉					唐草「タカ」	三足付	200920 -000206	
133 遺跡9	S K22	土師器	杯	—	—	(3.2)	硝・明赤釉	ナデ・ケズリ	ナデ			外面丹塗	砂粒(長石)	200920 -000219	
134 遺跡9	S K22	磁器	杯蓋	—	—	(1.1)	灰	ヨコナデ	ヨコナデ			微砂粒(長石)	200920 -000282		
135 遺跡9	S K22	磁器	杯	14.4	—	3.9	灰	ナデ・ケズリ	ヨコナデ			砂粒(長石)	200920 -000280		
136 遺跡9	S K22	磁器	杯	13.2	—	4.0	灰白	ナデ・ケズリ	ヨコナデ			精良	200920 -000281		
137 遺跡9	S K23	青磁	合子	—	—	(8.4)	硝・アブ灰						200920 -000214		
138 遺跡9	S K22	瓦	軒瓦	(12.6)	(18.2)	(4.8)	硝灰						200920 -000210		
139 遺跡9	S K23	陶器	瓶	15.2	6.8	6.9	黄釉						200920 -000216		
140 遺跡9	S K23	陶器	瓶	20.2	6.8	9.2	緑釉						200920 -000215		
141 遺跡10	S K23	磁器	小皿	12.6	7.5	3.3	染付	唐草文	唐氏唐文	瓶の目 印着あり	瓶花・雲霞 草・唐文	肥前系	200920 -000218	明治前	
142 遺跡10	S K23	磁器	七寸輪花皿	22.0	12.0	3.5	染付	唐草唐文	唐文	瓶花・唐文 「富貴長寿」	瓶花・雲霞 草・唐文	肥前系	200920 -000219		
143 遺跡10	S K26	磁器	小甕	6.5	3.2	4.4	染付	ナス・唐文				精良	200920 -000220		
144 遺跡10	S K26	磁器	小甕	7.5	4.5	4.4	色釉	唐氏唐文・唐・唐文			「玉松園 樹山景」	肥前系	200920 -000221		
145 遺跡10	S K26	瓦	丸瓦	(9.1)	(5.3)	(2.0)	浅黄緑					精良	200920 -000224		
146 遺跡10	S K26	青磁	瓶	—	—	(8.2)	(2.6)	明緑灰	花文			器付に 砂付着	200920 -000223		
147 遺跡10	S K26	磁器	段重	[10.4]	(9.6)	4.1	染付	竹唐文				肥前系	200920 -000222		
148 遺跡10	S K27	磁器	段重	[11.2]	(9.2)	1.5	色釉	唐・唐文				精良	200920 -000225		
149 遺跡10	S K27	磁器	急須	7.0	5.8	5.8	染付	瓶文				精良	200920 -000230		
150 遺跡10	S K27	磁器	鉢	(9.2~ 19.6)	(11.2)	4.4	色釉 染付	花唐草・唐唐文	竹唐・ 山唐文			肥前系	200920 -000229		

第4表 京限付屋敷遺跡第20次調査出土遺物観察表④

遺物ID	出土遺物	種 別	器 種	測 量			出土 数量	装 飾・文 様			産産・高台内 印記等	特 徴	製作地・出土	年代・備考	登録番号
				口径 (mm)	高さ (mm)	底径 (mm)		外 面	内 面	見込み					
151 遺物10	S-K27	瓦	軒平瓦	(18.4)	(21.3)	3.5	破欠						唐草文	2009/20 -000227	
152 遺物10	S-K27	陶器	磁鉢	(37.0)	(18.0)	15.2	破欠							2009/20 -000226	
153 遺物10	S-K26	ガラス	ワインボトル	—	6.7	(6.3)	破欠・リブ							2009/20 -000225	
154 遺物10	S-K27	ガラス	ワインボトル	—	6.8	(25.0)	破欠・色絵							2009/20 -000224	
155 遺物10	S-K28	白磁	小皿	9.5	6.0	1.6	透明			寿文			押押	2009/20 -000223	
156 遺物10	S-K28	白磁	小皿	9.6	4.8	1.7	透明			寿文			押押	2009/20 -000222	
157 遺物10	S-K28	白磁	小皿	(9.0)	—	(2.0)	金部	「第十一十」	版文					2009/20 -000221	
158 遺物10	S-K28	磁器	大入	10.5	8.2	8.9	染付	花文					肥前系	2009/20 -000220	
159 遺物10	S-K28	磁器	徳利	3.7	—	(15.0)	染付	鶴文					飯前系	2009/20 -000219	
160 遺物10	S-K28	磁器	小瓶	7.6	3.5	3.7	染付	松竹梅文					肥前系	2009/20 -000218	
161 遺物10	S-K28	磁器	瓶	(9.4)	3.1	3.8	色絵	「南渡万歳」						2009/20 -000217	
162 遺物10	S-K28	磁器	瓶	—	3.0	(4.8)	色絵	草文						2009/20 -000216	
163 遺物10	S-K28	磁器	小瓶	7.3	3.9	4.5	染付	竜川文					飯前系	2009/20 -000215	
164 遺物10	S-K28	磁器	瓶	11.5	4.1	5.0	色絵	瓦・餅・丸窓唐草					飯前系	2009/20 -000214	
165 遺物10	S-K28	磁器	角鉢	—	20.2	4.5	色絵	秋草文					飯前系	2009/20 -000213	
166 遺物10	S-K28	磁器	瓶	16.2	9.0	6.0	色絵	宝珠・文様					飯前系	2009/20 -000212	
167 遺物10	S-K28	陶器	行平鉢	15.8	6.2	4.6	灰青 焼物							2009/20 -000211	
168 遺物10	S-K28	陶器	羽釜	—	—	(16.0)	灰青							2009/20 -000210	
169 遺物11	S-K28	ガラス	瓶	—	1.6	(4.2)	透明							2009/20 -000209	
170 遺物11	S-K28	ガラス	瓶	1.8	2.3	6.4	明緑文							2009/20 -000208	
171 遺物11	S-K28	ガラス	瓶	1.6	2.5	6.5	青							2009/20 -000207	
172 遺物11	S-K28	ガラス	飲料瓶	—	3.8	10.1	緑							2009/20 -000206	
173 遺物11	S-K28	ガラス	香水瓶	2.2	2.4	12.6	透明							2009/20 -000205	
174 遺物11	S-K28	ガラス	瓶	2.2	5.3	12.3	透明							2009/20 -000204	
175 遺物11	S-K28	ガラス	ワインボトル	—	6.7	(27.4)	焼							2009/20 -000203	
176 遺物11	S-K30	土師器	灯明皿	8.9	4.9	2.0	洗青焼	ヨコナガ	ヨコナガ					2009/20 -000202	
177 遺物11	S-K30	瓦	軒平瓦	15.7	15.7	(9.5)	破欠							2009/20 -000201	
178 遺物11	S-K30	陶器	香炉	—	(4.0)	5.0	焼物							2009/20 -000200	
179 遺物11	S-E10土師	土師器	小皿	(8.4)	4.0	1.8	灰青焼	ヨコナガ	ヨコナガ					2009/20 -000199	
180 遺物11	S-E10土師	土師器	小皿	8.5	3.8	1.8	洗青	ヨコナガ	ヨコナガ					2009/20 -000198	
181 遺物11	S-E10土師	土師器	小皿	9.0	4.2	1.7	灰白	ヨコナガ	ヨコナガ					2009/20 -000197	
182 遺物11	S-E10土師	土師器	小皿	8.8	3.6	1.9	灰白	ヨコナガ	ヨコナガ					2009/20 -000196	
183 遺物11	S-E10土師	土師器	小皿	9.0	4.0	1.9	灰白	ヨコナガ	ヨコナガ					2009/20 -000195	
184 遺物11	S-E10土師	土師器	小皿	9.2	4.6	1.9	灰白	ヨコナガ	ヨコナガ					2009/20 -000194	
185 遺物11	S-E10土師	土師器	小皿	(9.6)	4.9	1.7	洗青焼	ヨコナガ	ヨコナガ					2009/20 -000193	
186 遺物11	S-E10土師	土師器	小皿	9.3	4.4	2.1	洗青焼	ヨコナガ	ヨコナガ					2009/20 -000192	
187 遺物11	S-E10土師	土師器	小皿	9.6	4.9	2.2	洗青焼	ヨコナガ	ヨコナガ					2009/20 -000191	
188 遺物11	S-E10土師	土師器	小皿	9.6	6.0	1.9	灰白	ヨコナガ	ヨコナガ					2009/20 -000190	
189 遺物11	S-E10土師	土師器	湯呑	7.6	3.7	5.2	染付	草文						2009/20 -000189	
190 遺物11	S-E10土師	土師器	小皿	8.4	4.2	1.8	灰白	ヨコナガ	ヨコナガ					2009/20 -000188	
191 遺物11	S-P23	土師器	高脚鉢	—	11.1	(6.0)	焼	ナガ	ナガ					2009/20 -000187	
192 遺物11	S-E32	陶器	瓶	—	3.8	(2.0)	焼物							2009/20 -000186	
193 遺物11	S-E32	白磁	紅皿	5.4	2.0	2.2	透明							2009/20 -000185	
194 遺物11	S-E32	磁器	手鏡	(6.4)	3.8	1.4	染付	蓮文						2009/20 -000184	
195 遺物11	S-E32	磁器	小瓶(小瓶?)	—	3.3	(3.0)	染付	草文						2009/20 -000183	
196 遺物11	S-E32	土師器	灯明皿	8.1	3.3	2.2	洗青焼	ヨコナガ	ヨコナガ					2009/20 -000182	
197 遺物11	S-E32	陶器	瓶	(9.4)	(5.4)	4.8	灰青 焼物							2009/20 -000181	
198 遺物11	S-E32	磁器	瓶	(11.0)	(5.0)	5.6	染付	草文						2009/20 -000180	
199 遺物11	S-D36	陶器	急須	(5.7)	2.6	(1.9)	焼物							2009/20 -000179	
200 遺物11	S-D35	磁器	煎茶	—	—	4.4	染付	「林下静庵」						2009/20 -000178	

第5表 京限付屋敷遺跡第20次調査出土遺物観察表⑤

遺物ID	出土遺物	種 別	器 種	測 量			出土 数量	器 種・装 飾			産地・高台内 印記等	特 徴	製作地・出土	年代・備考	登録番号
				口径 (mm)	径 (mm)	高さ (mm)		外 面	内 面	見込み					
201 遺跡11	S D35	瓦	軒平瓦	[14.5]	[23.0]	4.1	破片					捺印文		200920 -000286	
202 遺跡11	S D35	磁器	磁反碗	[11.4]	4.6	5.8	染付	草文	四方巻文	十字花		横状口縁		19c 200920 -000287	
203 遺跡11	S D37	青磁	小瓶	[8.0]	3.0	3.65	刷灰					口縁金部 貫入あり		200920 -000290	
204 遺跡11	S D37	磁器	小瓶	6.8	3.3	4.8	染付	草文				刷灰	瀬戸美濃	200920 -000289	
205 遺跡11	S D37	磁器	小皿	11.6	6.6	2.5	染付	牡丹・菊文	牡丹文	松竹梅文		菊紋・ ベロ型	瀬戸美濃	200920 -000287	
206 遺跡11	S D37	陶器	輪花鉢	[14.0]	[6.0]	4.0	刷灰色絵					玉輪花文	瀬戸美濃	200920 -000291	
207 遺跡11	S D37	磁器	小鉢	3.8	5.2	5.6	染付	山?	竹・ 松・梅文	ハナミズキ 五葉型				200920 -000288	
208 遺跡12	S D37	瓦	枕瓦	[24.0]	(21.1)	4.1	刷灰	特別造瓦後江島中村曹人 「坂島製」スタンプ						200920 -000292	
209 遺跡12	S D37	瓦	軒丸瓦	14.8	14.8	[13.0]	刷灰	「文」スタンプ						200920 -000294	
210 遺跡12	S D37	瓦	枕瓦	[24.0]	(21.1)	4.1	刷灰							200920 -000293	
211 遺跡12	S D37	石製品	石皿	15.1	4.6	1.8	磨赤褐色						「赤間」周 着	200920 -000295	
212 遺跡12	S P38	磁器	小碗	6.6	2.4	2.7	色絵	熊鷹	「熊鷹」 「木」	鳥雲 「中輪」			瀬戸美濃	200920 -000300	
213 遺跡12	S P38	青磁	小瓶	6.4	3.1	4.5	刷灰	「口縁巻文」	梅文					200920 -000298	
214 遺跡12	S P38	土製品	土皿	(5.0)	(2.7)	(5.2)	焼						緑砂粒 (灰毛、貫入)	200920 -000302	
215 遺跡12	S P38	磁器	小皿	9.6	5.5	1.7	色絵		舟・人物文				「舟」字型	200920 -000301	
216 遺跡12	S E40	磁器	紅皿	[4.0]	2.1	2.8	色絵	草花文					肥前系	200920 -000306	
217 遺跡12	S E40	磁器	碗	8.3	3.2	5.0	染付	梅文					くらわんか	200920 -000305	
218 遺跡12	S E40	磁器	碗	[11.2]	4.9	5.8	染付	草花文			二重杓内 透地		肥前系	200920 -000304	
219 遺跡12	S P39	磁器	飯碗	5.6	5.5	7.3	染付	松竹梅文					肥前系	200920 -000303	
220 遺跡12	S K41	青磁	鉢	—	6.0	(2.7)	刷灰							200920 -000307	
221 遺跡12	S K48	磁器	碗	[9.2]	—	(4.0)	色絵	藤文					肥前系	200920 -000314	
222 遺跡12	S K41	陶器	碗	[11.0]	—	(6.5)	刷灰						口紅	200920 -000308	
223 遺跡12	S K48	磁器	磁反碗	[9.8]	4.0	5.3	染付	草花文			君波文?			200920 -000309	
224 遺跡12	S K48	磁器	皿	13.8	8.5	3.8	染付	唐草文	花唐草文	五弁花	「大明成化 年製」		肥前系	200920 -000313	
225 遺跡12	S K48	土製品	磁鉢蓋	7.5	8.0	2.2	明焼			布目			刷砂粒 (灰毛、貫入)	200920 -000310	
226 遺跡12	S K48	土製品	磁鉢蓋	5.7	5.8	9.0	明焼						「東唐伊勢」 スタンプ	200920 -000311	
227 遺跡12	S K48	土製品	磁鉢蓋	4.3 3.7~ 4.0	8.2~ 8.5	—	にじみ焼						刷砂粒 (灰毛、貫入)	200920 -000312	
228 遺跡12	S D49	磁器	小皿	[10.2]	3.8	5.6	染付	菊・草花文	唐草文	松竹梅文			肥前系	200920 -000319	
229 遺跡12	S D49	磁器	段重皿	10.7	9.7	1.5	染付	七宝・花菱・菊文					肥前系	200920 -000317	
230 遺跡12	S D49	磁器	碗	10.2	8.8	3.6	染付	七宝・花菱・菊文					肥前系	200920 -000318	
231 遺跡12	S D49	青磁	碗	10.6	4.0	5.3	オリーブ灰						裏付に 砂付着	200920 -000321	
232 遺跡12	S D49	磁器	碗	11.1	3.8	5.2	緑砂 色絵	雲母片散 佈(赤)						200920 -000322	
233 遺跡12	S D49	ガラス	飲料水瓶	1.7	—	(12.3)	明緑灰						型合わせ 敷き	200920 -000343	
234 遺跡12	S D49	ガラス	薬瓶	1.8	2.0x3.2	7.9	透明	「大坪医院」					型合わせ	200920 -000339	
235 遺跡12	S D49	ガラス	薬瓶	2.0	2.0x3.2	8.0	透明	「白木医院」					型合わせ	200920 -000341	
236 遺跡12	S D49	ガラス	薬瓶	1.6	2.0x3.5	8.1	透明	「産科婦人科 前田診療所」					型合わせ	200920 -000338	
237 遺跡12	S D49	ガラス	薬瓶	2.0	4.0x4.5	13.7	透明	「産科婦人科 前田診療所」					型合わせ	200920 -000337	
238 遺跡12	S D49	ガラス	ビール瓶	—	6.9	(9.6)	濁	「サクラビール」						200920 -000344	
239 遺跡12	S D49	ガラス	牛乳瓶	3.1	4.5	16.2	透明	「東郷原町」 「西条清」					型合わせ	200920 -000336	
240 遺跡13	S D49	陶器	磁鉢	[45.0]	18.6	15.2	白濁焼	刷毛						200920 -000323	
241 遺跡13	S K50	磁器	輪花小皿	10.2	6.1	2.4	染付	鳥雲 横紋文	菊・草文				肥前系	200920 -000345	
242 遺跡13	S K50	磁器	輪花小皿	[10.0]	6.5	2.5	染付	蓮文?	菊・草文				肥前系	200920 -000346	
243 遺跡13	S K50	磁器	碗蓋	10.4	5.0	2.8	染付	蓮・雲文		雲文			肥前系	200920 -000347	
244 遺跡13	S K50	磁器	碗	[9.0]	4.0	5.0	染付	松子花文	松子花文				瀬戸美濃	200920 -000348	
245 遺跡13	S K50	磁器	碗	[10.0]	4.7	6.1	染付	草花文					裏付に 砂付着	200920 -000350	
246 遺跡13	S K50	磁器	小瓶	1.9	3.7	9.8	染付	若杉・草文					裏付に 砂付着	200920 -000353	
247 遺跡13	S K50	磁器	小瓶	—	4.5	(8.1)	染付	花唐草文					肥前系	200920 -000356	
248 遺跡13	S K50	磁器	段重	12.0	7.0	7.3	染付	蓮文					肥前系	200920 -000355	
249 遺跡13	S K50	磁器	段重	14.7	10.4	7.0	染付	旗・龍文					肥前系	200920 -000354	
250 遺跡13	S K50	磁器	鉢	14.8	10.5	7.1	染付	花唐文					輪花型	200920 -000352	

第6表 京限付屋敷遺跡第20次調査出土遺物観察表⑥

遺物No.	出土遺物	種別	器種	法量		出土位置	器 器 類			器底・高台内 印紋等	特 徴	製作地・出土	年代・備考	登録番号
				口径 (cm)	高さ (cm)		外 面	内 面	見込み					
251 遺跡13	S-K50	磁器	碗	[8.0]	[2.7]	4.0	色絵						2009/20 -000163	
252 遺跡13	S-K50	磁器	仏飯器	—	4.1	[5.2]	染付					肥前系	2009/20 -000167	
253 遺跡13	S-K50	磁器	仏飯器	[7.0]	3.9	4.9	灰白					肥前系	2009/20 -000168	
254 遺跡13	S-K50	磁器	碗	[8.4]	—	4.8	色絵	漢字・文文				漆器子皿あり	2009/20 -000162	
255 遺跡13	S-K50	磁器	火入	[10.0]	—	[6.7]	染付	康文				肥前系	2009/20 -000160	
256 遺跡13	S-K50	磁器	火入	10.0	7.7	8.0	染付	康文?				豊村に 砂付着	2009/20 -000359	
257 遺跡13	S-K50	白磁	紅皿	4.6	1.5	1.4	透明	貝				肥前系	2009/20 -000366	
258 遺跡13	S-K50	磁器	小瓶	—	2.6	[2.5]	色絵				花		2009/20 -000161	
259 遺跡13	S-K50	磁器	灰吹	—	4.0	7.4	色絵	松竹梅・康文文				口縁に墨い 打痕	2009/20 -000161	
260 遺跡13	S-K50	陶器	煎茶碗	[9.0]	3.3	5.1	焼締	面降文	面降文				2009/20 -000368	
261 遺跡13	S-K50	陶器	茶碗	—	4.1	[4.8]	焼締	灰釉					2009/20 -000368	
262 遺跡13	S-K50	陶器	茶碗	11.0	4.8	6.1	灰釉					上野焼系	2009/20 -000367	
263 遺跡13	S-K50	陶器	鉢	[18.0]	6.6	8.5	焼締	灰文					2009/20 -000370	
264 遺跡13	S-K50	陶器	煎茶	0.9	[5.4]	14.7	灰釉						2009/20 -000371	
265 遺跡13	S-K50	陶器	四耳瓶	10.0	—	[18.5]	焼締						2009/20 -000372	
266 遺跡13	S-K50	陶器	鉢鉢	[40.2]	14.8	15.1	焼締						2009/20 -000373	
267 遺跡14	S-K51	磁器	皿	—	[8.2]	[2.3]	染付			山水文?		豊村に砂付着	2009/20 -000378	
268 遺跡14	S-K51	陶器	水注	—	3.5	4.4	灰釉	花文 「山本」陽刻					2009/20 -000385	
269 遺跡14	S-K51	磁器	碗	[12.0]	5.2	6.9	染付 青磁	青磁	西方博文	松竹梅文		肥前系	2009/20 -000380	
270 遺跡14	S-K51	陶器	皿	[19.0]	[11.0]	3.6	焼締			花文		型打	2009/20 -000388	
271 遺跡14	S-K51	磁器	人形	—	[6.8]	焼締						底面八角形	2009/20 -000386	
272 遺跡14	S-K51	土製品	灰燐焼	—	20.5	1.3	洗炭焼	格子タタキ文				灰燐焼	2009/20 -000391	
273 遺跡14	S-K51	瓦	瓦丸	10.0	12.1	4.1	焼～黒焼						2009/20 -000389	
274 遺跡14	S-K51	瓦	瓦丸	10.1	12.2	4.2	焼炭						2009/20 -000393	
275 遺跡14	S-K51	瓦	瓦丸	25.1	10.2	5.1	焼炭						2009/20 -000391	
276 遺跡14	S-K54	白磁	紅皿	4.9	1.5	1.6	透明	貝				肥前系	2009/20 -000397	
277 遺跡14	S-K54	磁器	焼炭小瓶	[8.4]	4.5	4.5	染付	松文				肥前系	2009/20 -000396	
278 遺跡14	S-K54	磁器	焼炭小瓶	[10.0]	4.0	5.2	染付	山水・康文			砂紋文	肥前系	2009/20 -000395	
279 遺跡14	S-K55	磁器	小皿	—	3.4	[2.2]	染付					肥前系	2009/20 -000405	
280 遺跡14	S-K55	磁器	小皿	[10.6]	7.0	2.1	染付	唐草文				肥前系	2009/20 -000404	
281 遺跡14	S-K55	磁器	焼炭飯碗	11.3	4.3	5.5	染付	草花・焼文				肥前系	2009/20 -000398	
282 遺跡14	S-K55	磁器	望料碗	[11.0]	4.0	5.3	染付	扇・山水文	西方博文	扇 唐氏香文		肥前系	2009/20 -000400	
283 遺跡14	S-K55	磁器	望料碗	[11.2]	4.2	5.6	染付	扇・山水文	西方博文	扇 唐氏香文		肥前系	2009/20 -000401	
284 遺跡14	S-K55	磁器	望料碗	11.0	4.1	5.3	染付	扇・山水文	西方博文	扇 唐氏香文		肥前系	2009/20 -000399	
285 遺跡14	S-K55	白磁	梅花角皿	—	6.5	2.8	透明					豊村に 砂付着	2009/20 -000410	
286 遺跡14	S-K55	白磁	小鉢	11.8	4.0	4.3	透明					肥村に 砂付着	2009/20 -000411	
287 遺跡14	S-K55	磁器	小盃	1.7	—	[12.2]	染付	草花文				肥前系	2009/20 -000406	
288 遺跡14	S-K56	磁器	段重	12.2	6.8	4.0	色絵	松竹梅文				肥前系	2009/20 -000409	
289 遺跡14	S-K56	磁器	筒型碗	7.5	3.5	6.0	染付	山水・宝文				肥前系	2009/20 -000403	
290 遺跡14	S-K55	白磁	重	7.4	6.0	11.4	透明					肥前系	2009/20 -000412	
291 遺跡14	S-K55	陶器	茶碗	10.0	3.9	4.5	灰釉	煎茶碗				上野焼系	2009/20 -000411	
292 遺跡14	S-K55	陶器	茶碗	11.6	4.8	6.6	灰釉	煎茶碗				上野焼系	2009/20 -000413	
293 遺跡14	S-K55	陶器	土瓶	8.2	—	10.8	焼締						2009/20 -000415	
294 遺跡14	S-K55	陶器	壺	4.2	—	[15.3]	灰釉	康文?					2009/20 -000416	
295 遺跡14	S-K55	陶器	壺	[22.0]	10.5	19.7	二彩	山水文					2009/20 -000417	
296 遺跡14	S-K55	陶器	鉢鉢	32.6× 26.8	19.5	22.7	灰釉					三足付	2009/20 -000418	

第4章 第22次調査

1. 調査の経過

調査は駅ビル建設部分を対象として行った。廃土置き場等の関係から、北部より調査を始め、南部については、北部調査終了後反転して調査を行うこととする。7月20日より重機による表土の除去及び遺構検出作業を開始し、22日作業を終了。21日より作業員を投入し遺構の検出および掘り下げ、測量を随時行う。8月19日にはスカイマスターを用いて北部の写真撮影を行い、20日より北部の埋め戻し及び南部の反転作業を開始する。30日には、南部の全体写真をローリングタワーを用いて行い、9月1日に機材等の搬出を行い、作業を終了する。

2. 検出遺構

主な遺構は、近世の土坑、溝で屋敷地の基礎及び建物に関連する構造物は検出されていない。比較的大型の土坑が多く、廃棄土坑や穴倉がその大半を占めていることから、同時期に属するものと考えられる。

穴倉

SK1 (第13図、図版16) 調査区北よりに検出された不整形土坑で、長軸4.0m、短軸3.4m、深さ1.23mを測り、底面中央に土坑を分割する間仕切り状の高まりと、東側に地山削り出しの階段を2段敷設する。階段部を有することから穴倉と考えられるが、間仕切り状高まりの機能については不明である。遺物は、覆土より19世紀代の陶磁器が出土している。

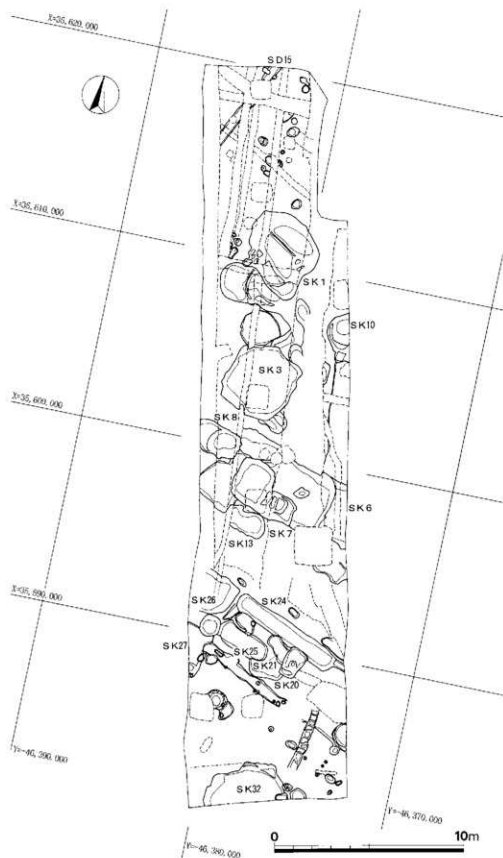
SK7 (第13図、図版16) 調査区のほぼ中央より検出された方形土坑で、長軸3.72m、短軸2.44m、深さ1.26mを測り、東側に張り出すように地山削り出しの階段が4段敷設される。階段部を有することから穴倉と考えられる。遺物は、覆土より18世紀代の陶磁器類が出土している。

SK8 (第13図、図版16) 調査区中央、SK7の西に位置する方形土坑で、長軸1.86m以上、短軸1.64m、深さ1.5mを測る。周囲をSK4・14に囲まれるものの切り合い関係は不明である。遺物は、覆土中より19世紀代の陶磁器類が出土している。

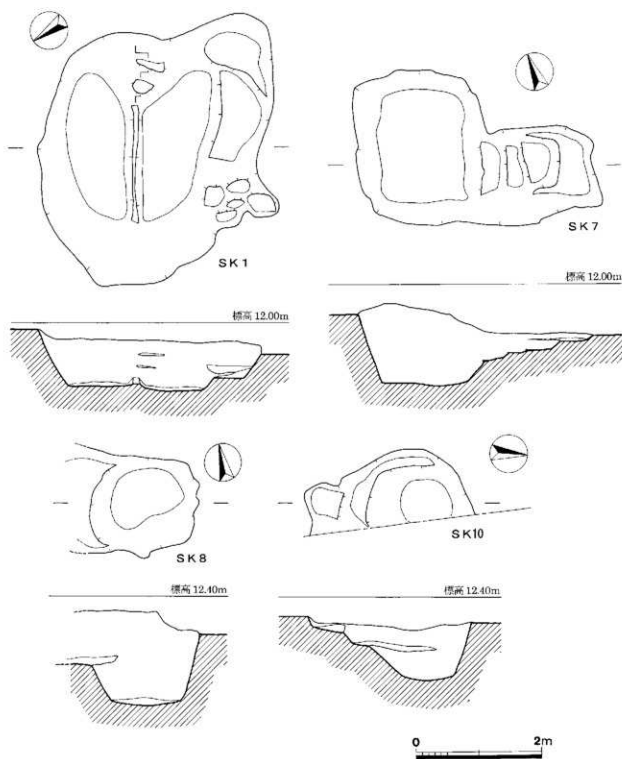
SK10 (第13図、図版16) 調査区中央東端に位置する不整形土坑で、遺構の東半が調査区外へ広がる。長軸2.46m、短軸1.18m以上、深さ0.9mを測り、南側に張り出すように地山削り出しの階段が2段敷設される。遺物は、覆土中より19世紀代の陶磁器類が出土している。

土坑

SK3 (第14図、図版17) 調査区中央北よりに位置する不整形土坑で、長軸4.02m、短軸3.88m、深さ0.62mを測る。周囲にSK2・SK16が位置するが切り合いは不明である。大型土坑であるため、穴倉を想定して検出を行ったが階段等の敷設物は確認できなかった。遺物は、覆土中より世紀代の陶磁器類、鉄砲玉、鉛片などが出土している。



第12図 第22次調査遺構配置図 (1/200)



第13図 SK1・7・8・10実測図 (1/60)

SK6 (第14図、図版17) 調査区中央東端に位置する土坑で、東部を調査区に西部をSK4に切られる。現状での規模は、長軸1.08m、短軸3.38m、深さ0.86mを測る。両端を切られているため形状等詳細な情報は得られなかったが、出土遺物は19世紀代の陶磁器類を中心としており、今回の調査においては古い時期に属する。

SK12 (図版12) 調査区中央、SK3の東に位置する土坑で、その大半を攪乱によって削られている。検出できたのは東側の一部のみで遺構の詳細は不明である。遺物は、19世紀代の陶磁器と鉄砲玉などが出土している。

SK13 (第14図、図版17) 調査区中央、SK7の南に位置する不整形土坑で、長軸1.92m以上、短軸1.24m、深さ0.2mを測る。比較的浅い土坑で、19世紀代の遺物を含み、廃棄土坑と考えられる。

SK14 (第12図) 調査区中央、SK7の西に位置する不整形土坑で、周囲をSK7・8・13に囲まれるが切り合いはSK7を切ること以外は不明である。長軸2.0m以上、短軸1.48m、深さ0.36mを測る。遺構の重なりが激しくその性格をうかがうことは困難であるが、19世紀代の陶磁器が大量に出土していることから最終的には廃棄土坑として利用されたと考えられる。

SK20 (第14図、図版17) 調査区南中央に位置する隅丸方形土坑で、SK21・24を切る。長軸1.6m、短軸1.1m、深さ0.58mを測る。底面は一様になだらかではなく、中央に窪みを有し、柱等の構造物を埋設していた可能性もある。遺物は、19世紀代の陶磁器類が出土している。

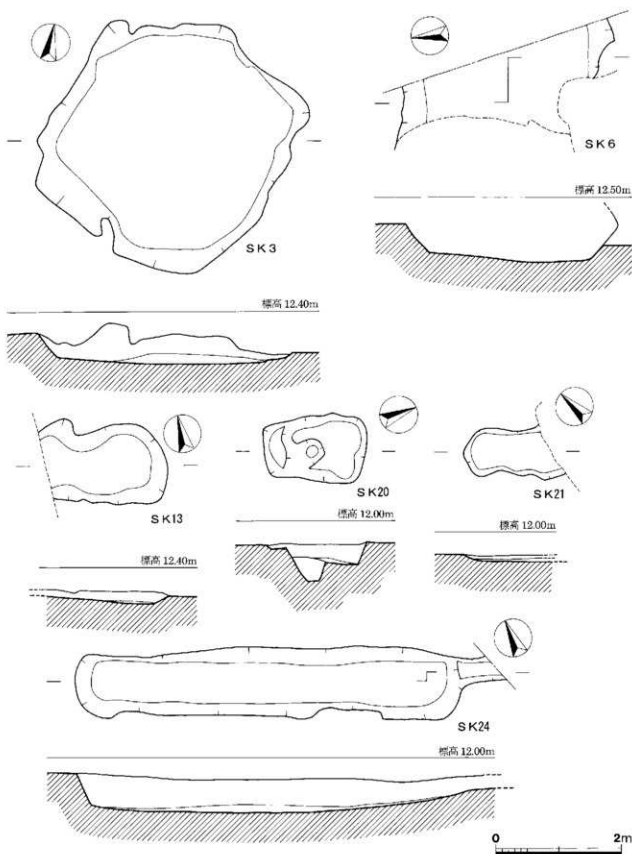
SK21 (第14図、図版17) 調査区南中央に位置しSK20に切られる不整形土坑で、長軸1.4m以上、短軸0.72m、深さ0.1mを測る。遺物は、19世紀代の陶磁器類が出土している。

SK24 (第14図、図版17) 調査区中央南、SK20の北側に位置する長方形土坑で、長軸6.86m、短軸1.12m、深さ0.52mを測る。遺構は東端部より底面レベルが1段高くなり調査区外へと伸びる。比高差は0.4mを測る。長方形の細長い形状であるため検出当初は屋敷境の溝として検出を行ったが、隣接するSK26との切り合い関係が認められなかったため、土坑と認識した。遺物は、19世紀代の陶磁器類が出土している。

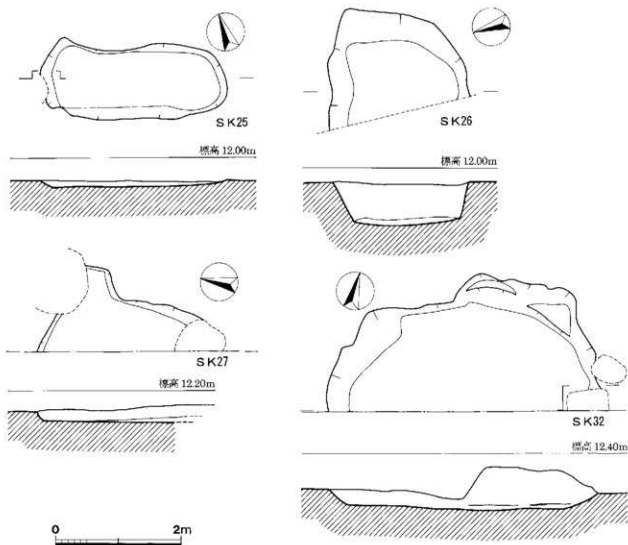
SK25 (第15図、図版17) 調査区中央南、SK21の西に位置する隅丸長方形土坑で、長軸2.88m以上、短軸11.8m、深さ0.08mを測る。比較的浅い土坑で、覆土中に19世紀代の陶磁器類が検出されている。性格は不明であるが、最終的には廃棄土坑として利用されたと考えられる。

SK26 (第15図、図版17) 調査区南西端に位置する不整形土坑で、遺構の西半が調査区外に広がる。現状で、長軸1.68m、短軸1.15m、深さ0.64mを測る。遺構の半ばが未調査のため正確は不明であるが、穴倉として利用されていた可能性は否定できない。覆土中より19世紀代の陶磁器類が出土しているため、最終的には廃棄土坑として利用されていたと考えられる。

SK27 (第15図、図版17) 調査区南西端に位置する不整形土坑で、遺構の西半が調査区外に広がる。現状で、長軸2.64m以上、短軸1.32m以上、深さ0.7mを測る。遺構の半ばが未調査のため正確は不明であるが、SK26同様に穴倉として利用されていた可能性は否定できない。覆土中より



第14図 SK3・6・13・20・21・24実測図 (1/60)



第15図 SK25・26・27・32実測図 (1/60)

19世紀代の陶磁器類が出土しているため、最終的には廃棄土坑として利用されていたと考えられる。

SK32 (第15図、図版17) 調査区南端に位置する不正円形土坑で、遺構の南半が調査区外に広がる。現状で、長軸4.26m、短軸2.18m以上、深さ0.7mを測る。楕鉢状の底面を有する土坑で、出土遺物は少ない。大型の穴倉状遺構との認識で検出作業を行ったが敷設された施設の確認にはいたらなかった。

井戸

SE38 (第12図) 調査区南東隅に位置する円形井戸で、長軸1.0mを測る。調査期間の関係で、1m以下の掘り込みは行えなかったが、素彫りの井戸と考えられる。覆土より19世紀代の陶磁器類が出土している。

溝

SD15 (第12図) 調査区北西隅を攪乱に切られながらも東北から南西方向に伸びる溝で、長さ3.52m、幅0.43m、深さ0.17mを測る。天保年間図によると、溝の位置する付近には屋敷間を

走る道路が位置していた状況が読み取れるため、この溝は道路の側溝、あるいは屋敷敷に付帯する溝であった可能性が高い。覆土から遺物はほとんど検出されていないが少量の近世陶磁器片が出土している。

3. 出土遺物

全体でバンコンテナー 14 箱の遺物が出土した。近世陶磁器が主体となるが、弥生土器片や須恵器片など遺構に伴わない前時代の遺物も少量出土した。遺物の詳細については、第7～10表、出土遺物観察表に述べているので、ここでは特徴のあるものについて概観する。

1～48は、SK1出土遺物である。20～24は窯道具の三足ハマで、城下を通じ広く出土している。窯道具がなぜ武家屋敷地より出土するのかは不明である。22には久の文字の印が押されており窯記号と考えられる。35は陶器製の貧乏徳利で、かろうじて「や」の文字だけが判読可能である。40は、レンガで荒い礫や砂粒を多く含む。50はSK3出土の広東碗。61はSK10出土の端反碗。140・143はSK26出土の土師器小皿で、140は松竹梅が浮き彫りされる上手の皿。143は底面糸切り痕跡がナゲ消されている。151～163までは鉛製品で、152～155・157・158は鉄砲弾、156・161は弾を鋳造する際に出来た湯口の痕跡（バリ）。159・160・162・163は弾鋳造時の残滓と考えられる。

4. 総括

京限侍屋敷遺跡第22次調査地点は、天保年間図によると、北に松下家、南に太田家が位置していたことが窺える。延寶八年図や元禄十四年図によれば、北に佐々木家、南に松田家が所在していたことが確認できるため、元禄から天保の間に家主が変わったことが確認できる。その後は、安政二年改切絵図などから幕末まで、松下・太田両家が当地に居を構え続けていた状況が窺える。家禄は松下家が二百十石、太田家が百石で共に中級武士団に属す。

今回の調査地において検出された遺構は、穴蔵・土坑・溝・井戸等である。調査の最大の目的である屋敷地と建物痕跡の検出には至らなかった。検出遺構を時期別に俯瞰すると、SK6・21が17世紀代に遡り、最も古い遺構となる。その他の遺構は大半が幕末から明治期である19世紀中葉のもので、調査区のほぼ全面に渡って検出されている。このような土坑群が広く検出されていることから、調査地は武家屋敷地の裏庭ないし空閑地であったと考えられ、屋敷は土坑群の密度が現状する北ないし北東に存在していたと考えられる。また、調査区北西隅で検出されたSD15が、絵図に見える道路に付随する構造物である可能性が高い。

第7表 京限付屋敷遺跡第22次調査出土遺物観察表①

遺物番号	出土遺物	種別	器種	重量			発付地	装飾・図案			底面・高台内 印紋等	特徴	製作地・出土	年代・備考	登録番号
				口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)		外面	内面	見込み					
1 図版18	SK1-4層	磁器	燗反碗	10.4	4.2	5.8	染付	風流・ 吉祥文	雲文	草花文			13c	201006 -000022	
2 図版18	SK1-4層	磁器	燗反碗	9.8	4.0	5.8	染付	竹文	竹文	雲文			13c	201006 -000023	
3 図版18	SK1床面	磁器	燗反碗	(9.4)	5.0	3.7	染付	山水文		岩鼓文			13c	201006 -000022	
4 図版18	SK1-4層	磁器	燗反碗	(8.4)	3.4	4.8	染付	草花文					13c	201006 -000024	
5 図版18	SK1-4層	磁器	燗反碗	8.0	3.6	4.4	染付	竹垣・梅文	竹垣・梅文				13c	201006 -000025	
6 図版18	SK1-4層	磁器	燗反碗	7.4	3.1	4.0	染付	草花文					13c	201006 -000026	
7 図版18	SK1-3層	磁器	小瓶	6.2	3.2	5.0	染付	丸に牡丹文					13c	201006 -000013	
8 図版18	SK1-4層	磁器	小瓶	6.2	3.2	5.1	染付	扇・花文	雲文		欄高台		13c	201006 -000027	
9 図版18	SK1-4層	磁器	蓋	(6.0)	2.7	2.8	染付		風景文				13c	201006 -000028	
10 図版18	SK1-4層	白磁	膳口	4.9	2.9	3.1	透明						13c	201006 -000029	
11 図版18	SK1-3層	磁器	小瓶	6.3	2.5	2.9	染付	雲文					13c	201006 -000014	
12 図版18	SK1-3層	磁器	蓋物	7.9	7.7	5.2	染付	山水・ 蓮弁文					13c	201006 -000011	
13 図版18	SK1床面	磁器	鉢	15.3	5.5	7.2	染付	顔氏香文	漢文	雲文			13c	201006 -000023	
14 図版18	SK1-4層	磁器	小皿	8.7	4.0	2.6	染付		菊文			押押	13c	201006 -000042	
15 図版18	SK1-4層	磁器	小皿	8.5	4.0	2.5	染付		扇・花文				13c	201006 -000015	
16 図版18	SK1-4層	磁器	小皿	8.6	4.1	2.6	染付		菊文			押押	13c	201006 -000041	
17 図版18	SK1-4層	磁器	小皿	(7.9)	(3.6)	2.0	色絵		横文	寿文			13c	201006 -000043	
18 図版18	SK1床面	磁器	小皿	8.0	5.7	2.0	色絵		横文	寿文			13c	201006 -000044	
19 図版18	SK1-4層	白磁	缸皿	4.9	1.0	1.3	透明		貝				13c	201006 -000044	
20 図版18	SK1-4層	陶器	三足ハヤ	4.9	4.8	1.1							13c	201006 -000137	
21 図版18	SK1-4層	陶器	三足ハヤ	4.7	4.6	1.4							13c	201006 -000136	
22 図版18	SK1-4層	陶器	三足ハヤ	5.9	5.9	1.2							13c	201006 -000135	
23 図版18	SK1-3層	陶器	三足ハヤ	5.2	4.8	1.5							13c	201006 -000117	
24 図版18	SK1-4層	白磁	三足ハヤ	4.5	4.3	1.1	透明						13c	201006 -000047	
25 図版18	SK1-4層	白磁	戸車	5.2	5.2	1.1	透明						13c	201006 -000046	
26 図版18	SK1-4層	陶器	【ロケット】	(3.6)	2.2	2.9	灰釉						13c	201006 -000052	
27 図版18	SK2-2層	土師器	【ロケット】	1.2	—	(2.8)	焼					精良	13c	201006 -000054	
28 図版18	SK1-4層	陶器	【ロケット】	2.0	1.0	1.1	灰釉						13c	201006 -000051	
29 図版18	SK1-4層	白磁	【ロケット】	1.2	1.1	3.6	透明						13c	201006 -000048	
30 図版18	SK1-4層	磁器	蓋	4.7	4.0	1.5	染付	蓮根・鳥文					13c	201006 -000045	
31 図版18	SK1床面	陶器	小瓶	(5.8)	3.5	4.9	灰釉						13c	201006 -000049	
32 図版18	SK1床面	陶器	小瓶	6.2	3.2	4.7	灰釉・ 敷絵		草花文				13c	201006 -000086	
33 図版18	SK1-4層	陶器	瓶	6.2	3.6	5.3	灰釉						13c	201006 -000050	
34 図版18	SK1床面	陶器	急須	11.4	(10.0)	11.9	灰釉・緑釉 敷絵		梅花文				13c	201006 -000088	
35 図版18	SK1-4層	陶器	貫之膳口	—	9.1	10.7	灰釉						13c	201006 -000131	
36 図版18	SK1-4層	陶器	壺	8.0	3.6	13.8	灰釉						13c	201006 -000132	
37 図版18	SK1-4層	土師器	サナ	16.8	16.7	2.0	赤釉					微砂粒(長石・ 雲母)	13c	201006 -000055	
38 図版18	SK1-4層	土師器	サナ	17.4	17.2	1.8	焼					微砂粒(長石・ 雲母)	13c	201006 -000056	
39 図版18	SK1-4層	土師器	サナ	19.6	19.2	1.9	焼					微砂粒(長石・ 雲母)	13c	201006 -000057	
40 図版18	SK1-3層	土製品	レンガ	(16.3)	11.0	8.1	灰質～ 灰釉						13c	201006 -000131	
41 図版18	SK1-4層	陶器	蓋	8.4	—	(1.2)	灰釉						13c	201006 -000128	
42 図版18	SK1-4層	陶器	蓋	9.2	7.4	1.3	灰釉						13c	201006 -000127	
43 図版18	SK1-4層	陶器	灯明皿	8.4	3.1	2.3	灰釉					糸切り	13c	201006 -000133	
44 図版18	SK1-4層	陶器	小皿	8.9	3.5	2.4	灰釉		横線・花文			三島手	13c	201006 -000125	
45 図版18	SK1-4層	陶器	小皿	(8.6)	(4.0)	2.6	灰釉		横線・花文			三島手	13c	201006 -000126	

第8表 京限付屋敷遺跡第22次調査出土遺物観察表②

遺物番号	出土遺物	種別	器種	度量			発付地	文様・図案			底面・高台内 印紋等	特徴	製作地・出土	年代・備考	登録番号
				口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)		外面	内面	見込み					
46 遺物19	S K 1-4 類	陶器	ヒョウソク	7.1	5.3	2.5	焼結						19c	201006 -000334	
47 遺物19	S K 1-4 類	陶器	急須	6.6	5.6	7.7	灰釉 赤褐色	陶文					19c	201006 -000335	
48 遺物19	S K 1-4 類	陶器	鍋蓋	10.5	3.5	4.2	焼結 刷毛目						19c	201006 -000336	
49 遺物19	S K 3	磁器	鉢	14.6	5.9	7.85	染付	松竹梅文 墨文	西方模文	十字花文			19c	201006 -000337	
50 遺物19	S K 3	磁器	広東碗	11.3	6.5	6.3	染付	草花文		雲文			19c	201006 -000338	
51 遺物19	S K 3	陶器	碗	(9.4)	3.7	5.4	灰釉・ 緑釉						19c	201006 -000339	
52 遺物19	S K 3	磁器	広東碗蓋	(9.8)	(5.4)	2.3	染付	魚文?	雲文?				19c	201006 -000340	
53 遺物19	S K 6	白磁	皿	(14.4)	—	(2.8)	透明	蓮葉?				彫刻	17c後半?	201006 -000341	
54 遺物19	S K 6	陶器	皿	—	4.7	(2.3)	灰釉			砂目 黒目			17c後半?	201006 -000342	
55 遺物19	S K 6	陶器	小瓶	(7.0)	3.6	4.3	白陶輪						17c後半?	201006 -000343	
56 遺物19	S K 8	青磁	碗	(10.8)	4.9	7.9	オリーブ灰							201006 -000344	
57 遺物19	S K 8	磁器	碗	(10.2)	4.1	5.6	染付	竹文						201006 -000345	
58 遺物19	S K 8	磁器	小皿	(8.0)	4.6	2.0	染付			松葉文				201006 -000346	
59 遺物19	S K 8	陶器	小皿	(8.8)	3.8	2.7	鉄釉			蓮華・花文			三島手	201006 -000347	
60 遺物19	S K 10	磁器	碗	9.8	3.8	5.2	染付	立懸文?						201006 -000348	
61 遺物19	S K 10	磁器	碗	9.3	4.0	5.3	染付	子持格子文		二重 井桁文				201006 -000349	
62 遺物19	S K 10	磁器	碗蓋	8.3	3.5	2.5	染付	青南波文	青南波文	青南波文				201006 -000350	
63 遺物19	S K 10	磁器	蓋物	—	—	(5.8)	染付	花文				銅版		201006 -000351	
64 遺物20	S K 13	陶器	瓶	—	12.3	(12.6)	白陶輪							201006 -000352	
65 遺物20	S K 13	陶器	瓶	—	14.4	(9.1)	二部							201006 -000353	
66 遺物20	S K 14	磁器	皿	13.0	7.5	3.3	染付	草文?	草花文	玉弁花		くろわんか手	18c中～	201006 -000354	
67 遺物20	S K 14	白磁	皿	10.5	5.5	2.9	透明						18c中～	201006 -000355	
68 遺物20	S K 14	磁器	皿	(13.4)	(8.2)	3.2	染付	草文	山水文?			くろわんか手	18c中～	201006 -000356	
69 遺物20	S K 14	磁器	碗	(9.4)	(3.6)	5.1	染付	草花文					18c中～	201006 -000357	
70 遺物20	S K 14	磁器	碗	8.6	3.0	4.6	染付	草花文					18c中～	201006 -000358	
71 遺物20	S K 14	磁器	碗	9.8	(3.2)	4.4	色絵			草花文		口縁	18c中～	201006 -000359	
72 遺物20	S K 14	陶器	鉢	10.8	4.4	7.7	灰釉・刷毛 目・鉄釉	雲文					18c中～	201006 -000360	
73 遺物20	S K 14	陶器	碗	(9.4)	4.4	5.5	灰釉						18c中～	201006 -000361	
74 遺物20	S K 14	陶器	碗	(10.6)	(4.0)	5.8							18c中～	201006 -000362	
75 遺物20	S K 14	陶器	灯明皿	2.7	3.2	2.2	焼結						18c中～	201006 -000363	
76 遺物20	S K 14	陶器	灯明皿	(9.4)	4.3	2.4	焼結						18c中～	201006 -000364	
77 遺物20	S K 14	土師器	灯明皿	(7.8)	3.4	2.0	灰白					口縁に施す 付着	18c中～	201006 -000365	
78 遺物20	S K 14	土師器	灯明皿	(8.2)	3.5	2.1	灰黄					口縁に施す 付着	18c中～	201006 -000366	
79 遺物20	S K 20	磁器	燗飯碗	(8.2)	3.4	4.6	染付	草花文		岩波文			19c～明治	201006 -000367	
80 遺物20	S K 20	磁器	小瓶	6.2	3.0	3.1	染付	蓮華	蓮華			口縁	19c～明治	201006 -000368	
81 遺物20	S K 20	白磁	小皿	8.2	4.0	2.5	透明			菊文		雲押	19c～明治	201006 -000369	
82 遺物20	S K 20	陶器	瓶	2.8	6.8	19.7	白陶輪						19c～明治	201006 -000370	
83 遺物20	S K 20	陶器	蓋	11.1	6.6	5.9	灰釉						19c～明治	201006 -000371	
84 遺物20	S K 21	磁器	皿	—	—	(5.1)	染付						17c後半?	201006 -000372	
85 遺物20	S K 21	陶器	皿	—	—	(2.4)	白陶輪						17c後半?	201006 -000373	
86 遺物20	S K 21	陶器	鉢	(9.8)	—	(4.5)	灰釉 緑釉						17c後半?	201006 -000374	
87 遺物20	S K 21	陶器	鉢	—	—	(8.8)	焼結 鉄釉						17c後半?	201006 -000375	
88 遺物21	S D 24	白磁	碗	13.1	4.7	5.5	透明			桜の目 輪郭ぎ		糸切り	201006 -000376		
89 遺物21	S D 24	磁器	碗	10.1	3.9	5.3	染付	草花文				くろわんか手	201006 -000377		
90 遺物21	S D 24	磁器	碗	9.0	4.0	4.5	染付	草花文				くろわんか手	201006 -000378		

第9表 京限付屋敷遺跡第22次調査出土遺物観察表③

遺物No.	出土遺物	種 別	器 種	測 量			発付 施設	装 飾・文 様			底面・高台内 印痕等	特 徴	製作地・出土	年代・備考	登録番号
				口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)		外 周	内 面	見込み					
91 遺跡21	S D24	磁器	端反碗	10.0	4.0	5.5	染付	子持格子文	子持格子文	二色 洋刺文				201006 -000236	201006
92 遺跡21	S D24	磁器	小皿	[9.0]	5.5	1.9	染付	唐草文	唐・鳥文?					201006 -000239	201006
93 遺跡21	S D24	白磁	紅皿	4.6	1.9	1.4	透明	唐草文						201006 -000244	201006
94 遺跡21	S D24	白磁	紅皿	4.9	1.3	1.5	透明	貝						201006 -000245	201006
95 遺跡21	S D24	白磁	紅皿	4.6	1.4	1.4	透明	貝						201006 -000246	201006
96 遺跡21	S D24	白磁	戸車	7.1	7.1	1.7	透明							201006 -000247	201006
97 遺跡21	S D24	白磁	戸車	7.1	7.1	1.8	透明							201006 -000248	201006
98 遺跡21	S D24	青磁	火入	8.8	6.6	4.8	明オリブ 反							201006 -000241	201006
99 遺跡21	S D24	陶器	碗	[8.7]	4.8	6.5	灰緑 色釉	唐文?						201006 -000251	201006
100 遺跡21	S D24	陶器	碗	[9.0]	3.2	5.4	灰緑 色釉	唐花文						201006 -000249	201006
101 遺跡21	S D24	陶器	碗	10.2	3.7	4.7	褐釉		唐文					201006 -000250	201006
102 遺跡21	S D24	陶器	蓋	13.1	3.4	3.6	緑釉							201006 -000252	201006
103 遺跡21	S D24	陶器	花生	5.8	—	(13.3)	灰緑 色釉	唐文?						201006 -000253	201006
104 遺跡21	S D24	陶器	膳鉢	—	16.0	(12.0)	褐釉							201006 -000256	201006
105 遺跡21	S D24	陶器	人形	—	—	(3.4)	色釉							201006 -000257	201006
106 遺跡21	S D24	土製器	土鈴	—	—	(3.6)	浅黄緑							201006 -000257	201006
107 遺跡21	S K25	明染付	皿	[13.0]	(6.4)	3.2	染付		組・重門					201006 -000263	201006
108 遺跡21	S K25	磁器	人形	6.8	4.6	(8.8)	色釉							201006 -000262	201006
109 遺跡22	S K26	磁器	碗	10.1	3.8	5.2	染付	唐花文						201006 -000264	201006
110 遺跡22	S K26	磁器	碗	10.6	4.4	6.2	染付	唐文	西方樓文 花文			唐		201006 -000265	201006
111 遺跡22	S K26	磁器	端反碗	11.8	4.7	6.0	染付	山水文		花文				201006 -000266	201006
112 遺跡22	S K26	磁器	小碗	7.2	2.9	3.5	染付	唐文						201006 -000270	201006
113 遺跡22	S K26	磁器	小碗	7.5	2.8	4.1	染付	唐文						201006 -000271	201006
114 遺跡22	S K26	白磁	小碗	7.1	2.9	3.4	透明							201006 -000272	201006
115 遺跡22	S K26	磁器	蓋	10.1	9.1	(2.3)	染付	宝珠文						201006 -000277	201006
116 遺跡22	S K26	磁器	蓋	6.6	5.3	2.1	染付	山水文						201006 -000278	201006
117 遺跡22	S K26	磁器	碗蓋	10.0	4.1	2.9	染付	唐文	西方樓文 花文			唐		201006 -000267	201006
118 遺跡22	S K26	磁器	碗蓋	10.2	5.6	2.7	染付	唐文	唐文					201006 -000268	201006
119 遺跡22	S K26	磁器	碗蓋	9.5	5.4	2.7	染付	牡丹文		唐文				201006 -000269	201006
120 遺跡22	S K26	磁器	碗口	7.3	3.7	5.9	染付	唐・水霞文		五弁花				201006 -000274	201006
121 遺跡22	S K26	白磁	碗口	6.4	4.7	5.5	透明							201006 -000273	201006
122 遺跡22	S K26	磁器	碗口	4.7	3.5	4.9	染付	帆船・ 唐文						201006 -000275	201006
123 遺跡22	S K26	磁器	碗蓋	6.8	4.1	5.9	染付	唐・水霞文						201006 -000276	201006
124 遺跡22	S K26	白磁	紅皿	4.4	1.4	1.4	透明	貝						201006 -000279	201006
125 遺跡22	S K26	白磁	紅皿	4.6	1.5	1.5	透明	貝						201006 -000280	201006
126 遺跡22	S K26	陶器	碗	12.1	5.5	7.5	灰緑							201006 -000284	201006
127 遺跡22	S K26	陶器	碗	10.1	3.7	5.6	灰緑							201006 -000282	201006
128 遺跡22	S K26	陶器	碗	[8.6]	3.7	5.8	灰緑							201006 -000283	201006
129 遺跡22	S K26	陶器	碗	9.8	3.6	6.0	灰緑						上野橋系	201006 -000281	201006
130 遺跡22	S K26	陶器	小碗	6.7	2.8	4.0	灰緑							201006 -000285	201006
131 遺跡22	S K26	陶器	瓶	—	7.4	(14.7)	褐釉							201006 -000290	201006
132 遺跡22	S K26	陶器	土瓶	8.6	—	(10.3)	灰緑							201006 -000286	201006
133 遺跡22	S K26	陶器	土瓶蓋	10.6	5.3	1.8	灰緑							201006 -000287	201006
134 遺跡22	S K26	陶器	土瓶蓋	9.3	6.4	3.6	褐釉							201006 -000288	201006
135 遺跡22	S K26	陶器	土瓶蓋	10.2	7.2	3.2								201006 -000289	201006

第10表 京限付屋敷遺跡第22次調査出土遺物観察表④

遺物No.	出土遺物	種 別	器 種	量 量			発付 施設	産 産・国 産			産産・高台内 印部等	特 徴	製作地・出土	年代・備考	登録番号
				口径 (cm)	高さ (cm)	長さ (cm)		外 周	内 周	見込み					
136 遺物22	S K26	陶器	磁鉢	(33.2)	14.5	13.0	焼結								201006 -000291
137 遺物22	S K26	土師器	灯明皿	7.0	4.1	1.2	燈	ヨコナデ	ヨコナデ		糸切り	口縁に施す 付巻	陶砂粒(炭石、 炭粒)		201006 -000292
138 遺物22	S K26	土師器	杯	6.7	3.7	1.2	灰黄	ヨコナデ	ヨコナデ		糸切り		精良		201006 -000293
139 遺物22	S K26	土師器	杯	(6.8)	3.8	1.3	灰黄	ヨコナデ	ヨコナデ		糸切り		精良		201006 -000294
140 遺物22	S K26	土師器	杯	—	—	(1.8)	灰白、暗褐	ヨコナデ	ヨコナデ		糸切り		精良		201006 -000298
141 遺物22	S K26	土師器	杯	6.8	3.5	1.2	灰黄	ヨコナデ	ヨコナデ		糸切り		精良		201006 -000295
142 遺物22	S K26	土師器	杯	6.9	4.0	1.2	にぶい黄緑	ヨコナデ	ヨコナデ		糸切り		陶砂粒(炭粒)		201006 -000296
143 遺物22	S K26	土師器	杯	(8.2)	5.7	1.7	灰黄黒	ヨコナデ	ヨコナデ		糸切り	内縁	陶砂粒(炭粒)		201006 -000297
144 遺物22	S K27	磁器	碗	(9.8)	4.2	5.4	染付	竹文			「大明年製」	コンニャク 印刷			201006 -000303
145 遺物22	S D29	白磁	碗	8.3	(3.6)	5.4	透明								201006 -000308
146 遺物22	S K32	磁器	碗	—	5.2	(3.1)	染付		草花文				くちわん小手		201006 -000312
147 遺物22	S K37	磁器	皿	12.2	7.2	3.3	染付		瓦文			蛇の目印 高台	熊手		201006 -000318
148 遺物22	S E38	磁器	周灰陶器	8.8	3.9	2.8	染付	格子文	格子文	井桁文					201006 -000319
149 遺物22	S E38	白磁	盤口	5.0	2.95	3.0	透明								201006 -000321
150 遺物22	S E38	磁器	皿	(14.2)	(8.0)	4.0	染付	唐草文	草花文						201006 -000320
151 遺物22	S K1-1 類	銅製品	鉄砲玉	1.3	1.2	1.1								重量: 7.8g	201006 -000001
152 遺物22	S K2-2 類	銅製品	鉄砲玉	1.4	1.3	1.25								重量: 10.1g	201006 -000008
153 遺物22	S K1-3 類	銅製品	鉄砲玉	1.3	1.3	1.1								重量: 7.9g	201006 -000023
154 遺物22	S K1-4 類	銅製品	鉄砲玉	1.3	1.2	1.2								重量: 10.9g	201006 -000070
155 遺物22	S K1-4 類	銅製品	鉄砲玉	1.7	1.2	1.2								重量: 11.4g	201006 -000138
156 遺物22	S K1-4 類	銅製品	鉄砲玉	1.3	1.1	1.0								重量: 3.2g	201006 -000071
157 遺物22	S K10	銅製品	鉄砲玉	1.0	1.0	1.0								重量: 6.9g	201006 -000176
158 遺物22	S K12	銅製品	鉄砲玉	1.3	1.3	1.3								重量: 11.2g	201006 -000181
159 遺物22	S K1-3 類	銅製品	鉛片	(2.4)	(2.3)	(1.2)								重量: 5.4g	201006 -000024
160 遺物22	S K1-3 類	銅製品	鉛片	(4.3)	(2.3)	(1.6)								重量: 36.7g	201006 -000025
161 遺物22	S K2-2 類	銅製品	鉄金具	1.3	0.9	0.6								重量: 2.1g	201006 -000009
162 遺物22	S K1-3 類	銅製品	鉛片	(2.7)	(1.0)	(0.9)								重量: 2.4g	201006 -000026
163 遺物22	S K1-4 類	銅製品	鉛片	(1.3)	1.0	(0.9)								重量: 2.4g	201006 -000072
164 遺物22	S K1-4 類	銅製品	排管継手	(3.2)	1.6	2.2								重量: 4.3g	201006 -000076
165 遺物22	S K1-3 類	銅製品	排管継手	(4.4)	1.1	1.1								重量: 5.9g	201006 -000027
166 遺物22	S K19	銅製品	排管継手	(4.0)	1.0	0.9								重量: 2.3g	201006 -000118
167 遺物22	S K17	銅製品	排管継手	(5.1)	(1.3)	(1.8)								重量: 5.5g	201006 -000212
168 遺物22	S K19	銅製品	排管継手	(5.0)	0.8	0.8								重量: 2.2g	201006 -000219
169 遺物22	S K1-3 類	銅製品	金具	1.5	2.4	0.2								重量: 0.7g	201006 -000029
170 遺物22	S K1-4 類	銅製品	ピン	1.4	0.5	0.15								重量: 0.7g	201006 -000073
171 遺物22	S K1-4 類	銅製品	ピン	2.2	0.4	0.2								重量: 0.3g	201006 -000074
172 遺物22	S K1-4 類	銅製品	金具	5.7	3.1	3.3								重量: 2.2g	201006 -000075
173 遺物22	S K13	銅製品	鉄金具	1.5	1.5	(2.6)								重量: 3.4g	201006 -000188
174 遺物22	S E38	銅製品	円盤	4.7	(4.1)	0.1								重量: 9.7g	201006 -000322
175 遺物22	S K1-4 類	銅製品	葉	22.4	0.4	0.4								重量: 14.1g	201006 -000079
176 遺物22	S K1-4 類	銅製品	葉	21.7	0.4	0.4								重量: 13.9g	201006 -000080
177 遺物22	S D24	銅製品	釘	7.6	1.7	1.2								重量: 15.4g	201006 -000260
178 遺物22	S K26	銅製品	把手	5.1	(12.6)	0.4								重量: 14.3g	201006 -000299

圖 版



(1) 第20次調査南調査区全景 (北から)



(2) 第20次調査中央調査区全景 (南から)



(1) 第20次調査北調査区全景① (南から)



(2) 第20次調査北調査区全景② (南から)



(1) SD13完掘状況(北東から)



(2) SD14~16完掘状況(北東から)



(3) SD37、SK26完掘状況(北西から)



(4) SD37完掘状況(北西から)



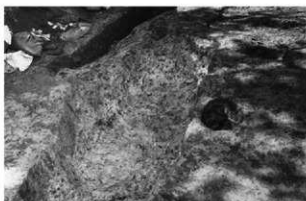
(5) SD37石列検出状況(北西から)



(6) SD49完掘状況(南西から)



(7) SK1完掘状況(北西から)



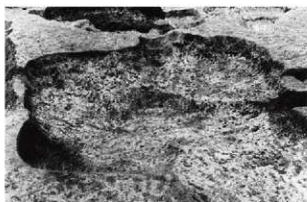
(8) SK4・5完掘状況(東から)



(1) SK 9 遺物出土状況 (南から)



(2) SK 9 完掘状況 (南西から)



(3) SK 10・22 完掘状況 (南西から)



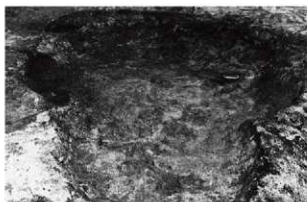
(4) SK 17 完掘状況 (南西から)



(5) SK 23 完掘状況 (南から)



(6) SK 24 完掘状況 (南から)



(7) SK 28 完掘状況 (西から)



(8) SK 36 掘り下げ状況 (北東から)



(1) SK43完掘状況 (南から)



(2) SK50掘り下げ状況 (南西から)



(3) SK51完掘状況 (南西から)



(4) SK55完掘状況 (西から)



(5) SE8掘り下げ状況 (南から)



(6) SE11掘り下げ状況 (南から)



(7) SE31完掘状況 (北から)



(8) SE34掘り下げ状況 (東から)



第20次調査出土遺物写真①

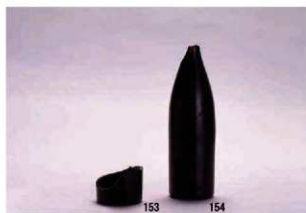


第20次調査出土遺物写真②





第20次調査出土遺物写真④



第20次調査出土遺物写真⑤



第20次調査出土遺物写真⑥



第20次調査出土遺物写真⑦



第20次調査出土遺物写真⑧



第20次調査出土遺物写真⑨



(1) 第22次調査北区完掘状況（南から）



(2) 第22次調査南区完掘状況（北から）



(1) 調査区北半部完掘状況 (南から)



(2) 調査区南半部完掘状況 (南から)



(3) SK1完掘状況 (東から)



(4) SK1階段検出状況 (西から)



(5) SK6・7完掘状況 (南から)



(6) SK8完掘状況 (西から)



(7) SK10完掘状況 (西から)



(8) SK10完掘状況 (北から)



(1) SK 3完掘状況 (西から)



(2) SK 13完掘状況 (南から)



(3) SK 14完掘状況 (北西から)



(4) SK 20完掘状況 (南から)



(5) SK 21完掘状況 (南から)



(6) SK 24完掘状況 (東から)



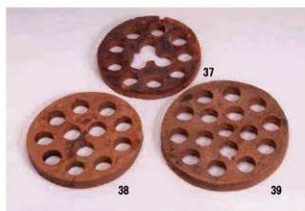
(7) SK 26完掘状況 (南から)



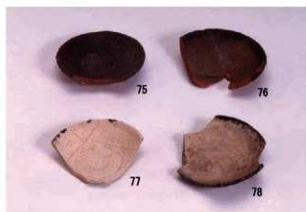
(8) SK 32完掘状況 (南から)



第22次調査出土遺物写真①



第22次調査出土遺物写真②

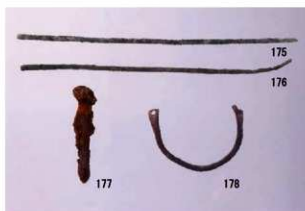
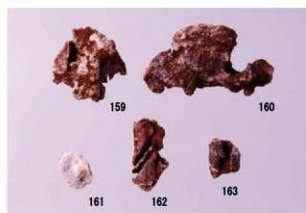


第22次調査出土遺物写真③



第22次調査出土遺物写真④





第22次調査出土遺物写真⑥

報告書抄録

ふりがな	きょうてまきむらいやしきいせき だい30・32 じちようき
書名	京限侍屋敷遺跡 第20・22次調査
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書
シリーズ番号	第323集
編著者名	水原道範・熊代昌之(編) 豊田章子
編集機関	久留米市 市民文化部 文化財保護課
所在地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15-3 Tel. 0942-30-9225 FAX 0942-30-9715 E-mail: bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
発行年月日	平成25年(2013)1月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
きょうてまきむらいやしきいせき 京限侍屋敷遺跡 第20次調査	くらめし 久留米市 じょうなんまち 城南町	40203	—	33° 19′ 17″	130° 30′ 5″	20100106 ～20100430	1,018㎡	記録保存調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
京限侍屋敷遺跡 第20次調査	集落	近世～近代	溝 土坑 井戸	9条 25基 10基	陶磁器、土師器、瓦類、 銅製品、須恵器、土製 品		京限四番目筋南部を調査。 屋敷地が南北幅33mであ ったことが判明。	

要約

調査地は筑後川左岸の低位段丘上、標高13m付近に位置する。調査地は久留米藩の上～中級武家屋敷地である京限侍屋敷の一角にあたる京限小路四番目筋に面した場所にあり、天保年間の絵図では城家・星野家の屋敷地に当たる場所である。今回の調査では城家の屋敷地の南・東・北を限る溝が検出され、城家の屋敷地は南北幅33mを測ることが判明した。区画内からは穴蔵や廃棄土坑、井戸が検出された。また、北側に隣接する星野家の屋敷地とは約1mの段差があることも判明し、周辺の調査成果からも京限四番目筋の南半部は北側から南側へ向かって低くなり、雑壇状に屋敷地が造成されていたことも判明した。

土木工事の届出日	平成21年10月15日	遺物の発見通知日	平成22年5月6日 (22文財第177号)
----------	-------------	----------	--------------------------

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
きょうてまきむらいやしきいせき 京限侍屋敷遺跡 第22次調査	くらめし 久留米市 じょうなんまち 城南町	40203	—	33° 19′ 9″	130° 30′ 6″	20100720 ～20100901	325㎡	記録保存調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
京限侍屋敷遺跡 第22次調査	集落	近世～近代	溝 土坑 井戸	3条 24基 1基	陶磁器、土師器、瓦類、 銅製品		京限侍屋敷の調査。穴蔵・ 土坑等を検出。	

要約

調査区は、天保年間久留米城下絵図に見られる松下家・太田家の敷地内に相当する。絵図に見られる道路の側溝と見られる溝を検出。その他比較的大型の穴蔵や土坑を検出した。

土木工事の届出日	平成22年6月16日	遺物の発見通知日	平成22年9月7日 (22文財第595号)
----------	------------	----------	--------------------------

京隈侍屋敷遺跡
—第20・22次調査—

久留米市文化財調査報告書 第323集
平成25年1月31日

発行	久留米市教育委員会
編集	久留米市 市民文化部 文化財保護課
印刷	永松印刷 久留米市中央町20-22